



AWS
Black Belt
Online Seminar

【AWS Black Belt Online Seminar】

S3ユースケース及びサービスアップデート

アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
ソリューションアーキテクト 焼尾 徹

2018.07.31

自己紹介

名前： 焼尾 徹（やきお とおる）
所属： アマゾンウェブサービスジャパン
ソリューションアーキテクト
ロール： Techsol SA
(個別相談会など)



好きなサービス： Amazon Wind Farm
AWSの取り組み

内容についての注意点

- 本資料では2018年7月時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報はAWS公式ウェブサイト(<http://aws.amazon.com>)にてご確認ください。
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格とAWS公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様が東京リージョンを使用する場合、別途消費税をご請求させていただきます。
- AWS does not offer binding price quotes. AWS pricing is publicly available and is subject to change in accordance with the AWS Customer Agreement available at <http://aws.amazon.com/agreement/>. Any pricing information included in this document is provided only as an estimate of usage charges for AWS services based on certain information that you have provided. Monthly charges will be based on your actual use of AWS services, and may vary from the estimates provided.

本セミナーの概要

□ 本セミナーで学習できること

- ❖ Amazon S3 のユースケースを通じて、その特性を理解します。
- ❖ ここ 1 年ほどの S3 関連のアップデート

□ 対象者

- ❖ どうやらS3をうまく使うと「良さそう」というのは聞いているものの、自分のシステムでどのように活用したらいいかイメージがわからない方
- ❖ AWS 上で構築の検討や既に運用を開始しているものの、いまいちS3を活用できていないなど

Agenda

- Amazon S3 おさらい
- ユースケースからみるS3活用シーン
 - 課題1 : バックアップストレージが一杯になって困っている
 - 課題2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - 課題3 : データベースが成長して、管理が難しくなってきた
- 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート

Agenda

- **Amazon S3 おさらい**
- ユースケースからみるS3活用シーン
 - 課題1：バックアップストレージが一杯になって困っている
 - 課題2：Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - 課題3：データベースが成長して、管理が難しくなってきた
- 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート

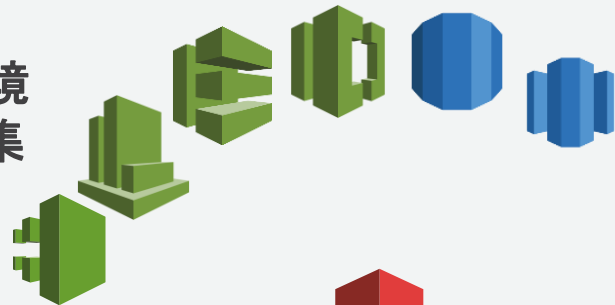
S3位置付け



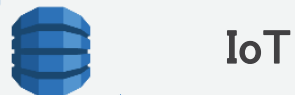
Web / モバイル



開発環境
ログ収集



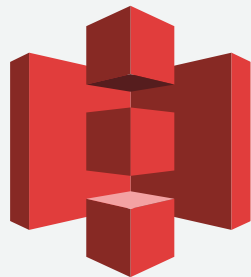
データベース



IoT



データ保護
アーカイブ



分析
機械学習

移行



Amazon S3とは

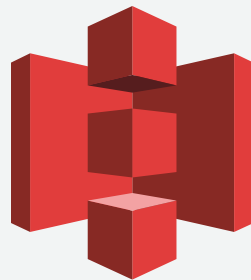
Amazon Simple Storage Service (S3)は、ユーザがデータを安全に、容量制限なく、データ保存が可能な、クラウド時代のオブジェクトストレージです。



S3 API



GET

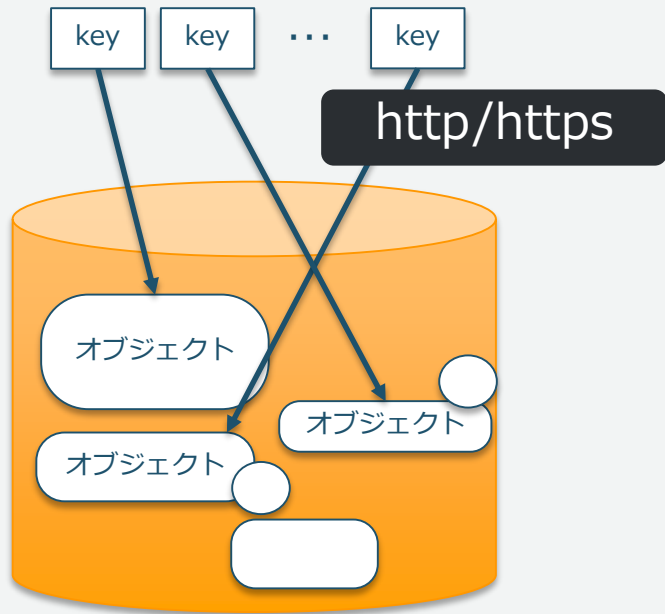


S3

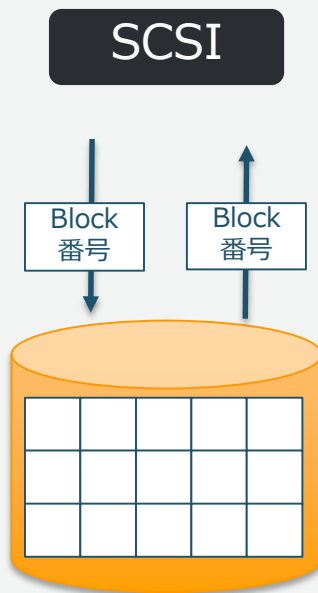
オブジェクトストレージの特徴

オブジェクトストレージ

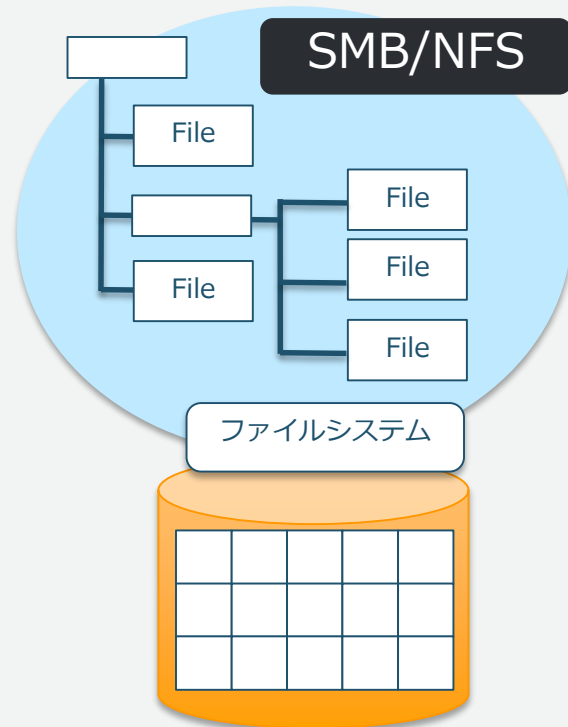
オブジェクト、それに付随するメタデータ、そのオブジェクトにアクセスするためのユニークなIDで構成されるデータの倉庫






ブロックストレージ



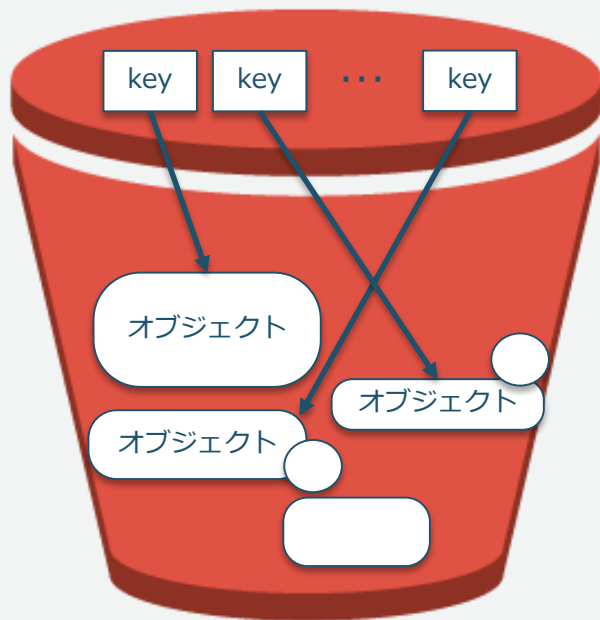
ファイルストレージ



S3へのアクセス方法

操作		利用イメージ
アプリケーション 開発	AWS SDK	<pre>PutObjectRequest putObjectRequest = new PutObjectRequest(bucketName, Key, file); PutObjectResult result = this.client.putObject(putObjectRequest)</pre> 
コマンドラインや シェル	AWS CLI	<pre>\$ aws s3 cp xxxx.mp4 s3://bucketName/ \$ aws s3api get-object --bucket-name <bucket-name> --key <prefix/file-name></pre>
手動、人間の操 作	Management Console 3rdパーティツ ール	 <p>AWS Management Console 3rd Party Tools</p>
アプリケーション やAWSサービス でのS3利用	HTTPS AWS SDK	<p>そのアプリケーションやAWSサービスが透過的にS3を活用する</p>  <p>AMI EBS RDS Cloud Watch Athena CodeDeploy Macie Glacier</p>

Amazon S3 用語



S3 バケット

バケット

- オブジェクトの保存場所。各AWSアカウントにてデフォルト100個まで作成可能。名前はグローバルでユニークな必要あり。上限緩和申請で100以上も利用可能に。

オブジェクト

- データ本体。S3に格納されるファイルでURLが付与される。バケット内オブジェクト数は無制限。1オブジェクトサイズは0から5TBまで(1つのPUTでアップロード可能なオブジェクトの最大サイズは5GB)。

キー

- オブジェクトの格納URLパス。「バケット+キー+バージョン」が必ず一意になる。

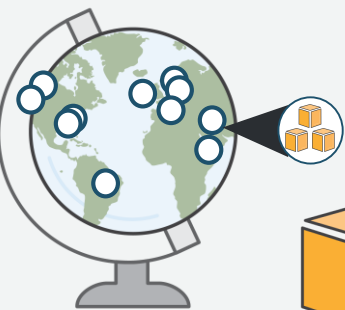
メタデータ

- オブジェクトに付随する属性の情報。システム定義メタデータ、ユーザ定義メタデータがある。

リージョン

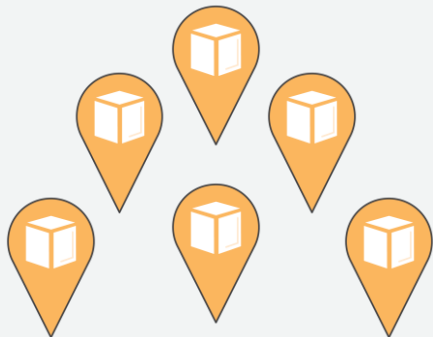
- バケットを配置するAWSのロケーション。目的のアプリケーションと同じリージョンであると有利。

S3 とアベイラビリティゾーン(AZ)



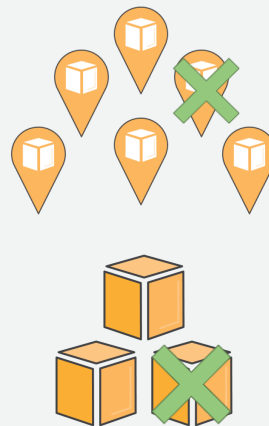
S3 標準は少なくとも3つのAvailability Zones(AZs)にデータを格納する

物理的に離れている - つまり、万一災害が起きても、1つのAZへの影響しかない



1つのAZは最大8つのデータセンターで構成

データセンター間、AZ間は低遅延のプライベートネットワークで接続されている



1つのデータセンターのダウン、または、1つのAZのダウンは、S3としての可用性に影響しない

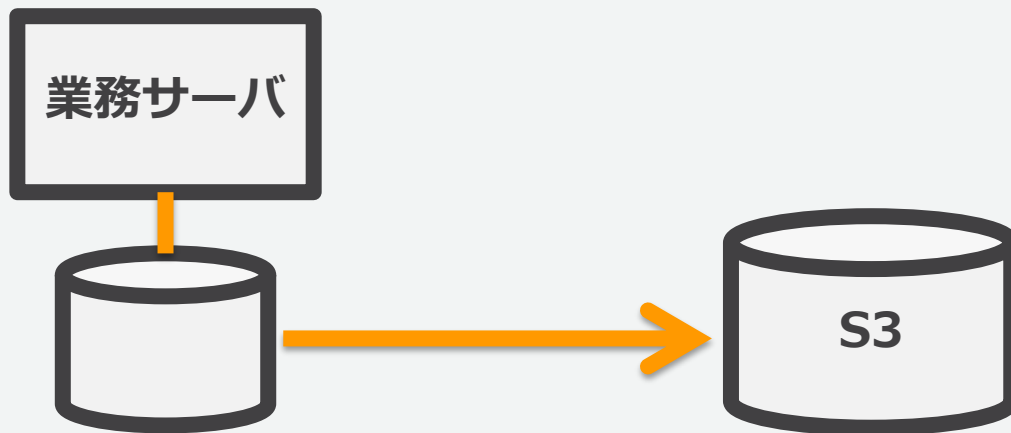
Amazon S3の耐久性
99.9999999999%

Agenda

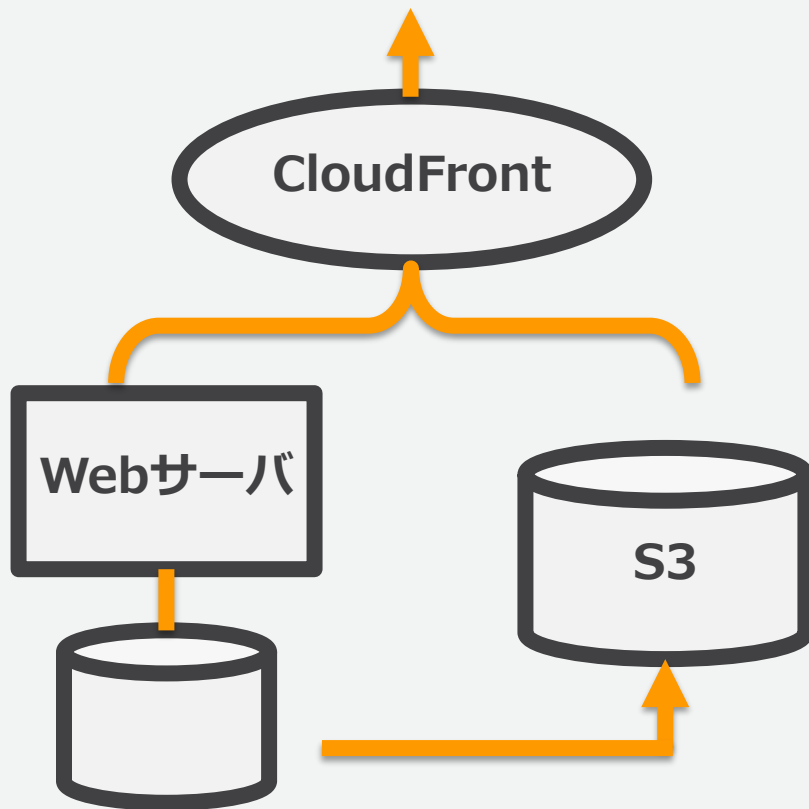
- Amazon S3 おさらい
- **ユースケースからみるS3活用シーン**
 - 課題1 : バックアップストレージが一杯になって困っている
 - 課題2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - 課題3 : データベースが成長して、管理が難しくなってきた
- 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート

S3 のユースケースは大別すると 次の3つ

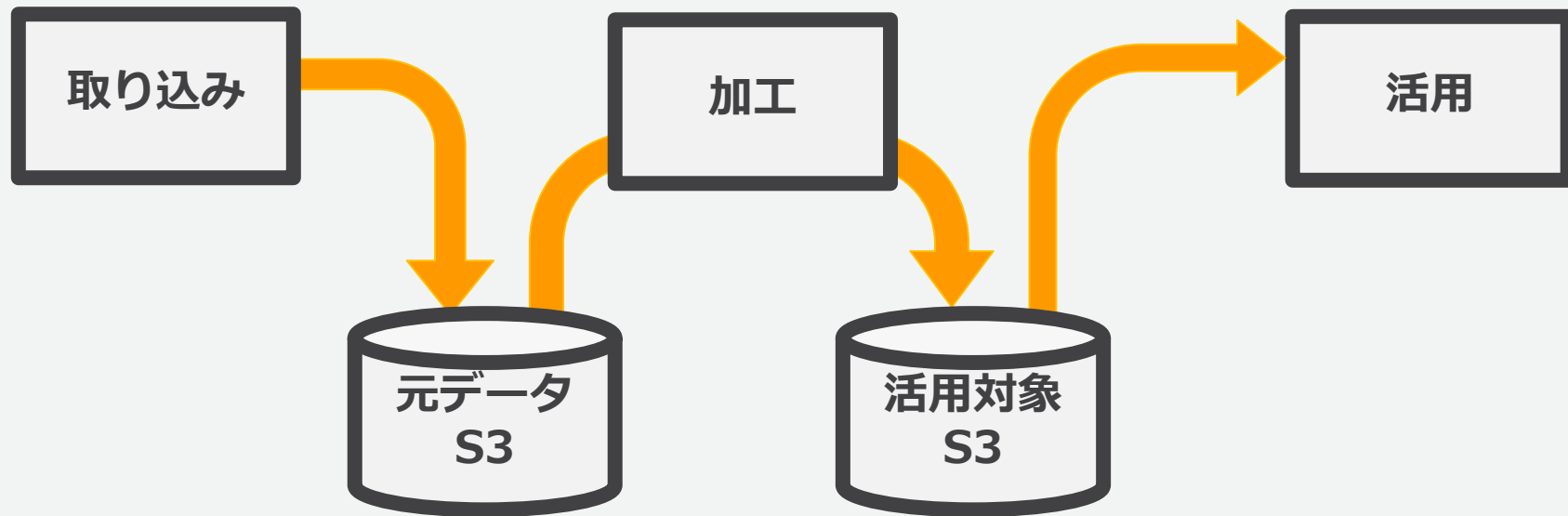
データ保護・移行



Webサーバのコンテンツオフロード



データレイク、データベース、機械学習やIoT等



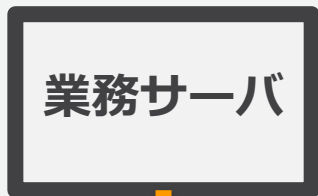
Agenda

- Amazon S3 おさらい
 - **ユースケースからみるS3活用シーン**
 - **課題1** : バックアップストレージが一杯になって困っている
 - **課題2** : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - **課題3** : データベースが成長して、管理が難しくなってきた
 - 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート
- これらの課題を例題とし、
S3のユースケース、応用例を見ていきましょう

Agenda

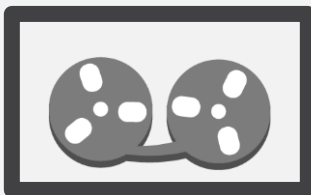
- Amazon S3 おさらい
- **ユースケースからみるS3活用シーン**
 - **課題1：バックアップストレージが一杯になって困っている**
 - 課題2：Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - 課題3：データベースが成長して、管理が難しくなってきた
- 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート

課題 1 : バックアップストレージが一杯になって困っている



プライマリ
ストレージ

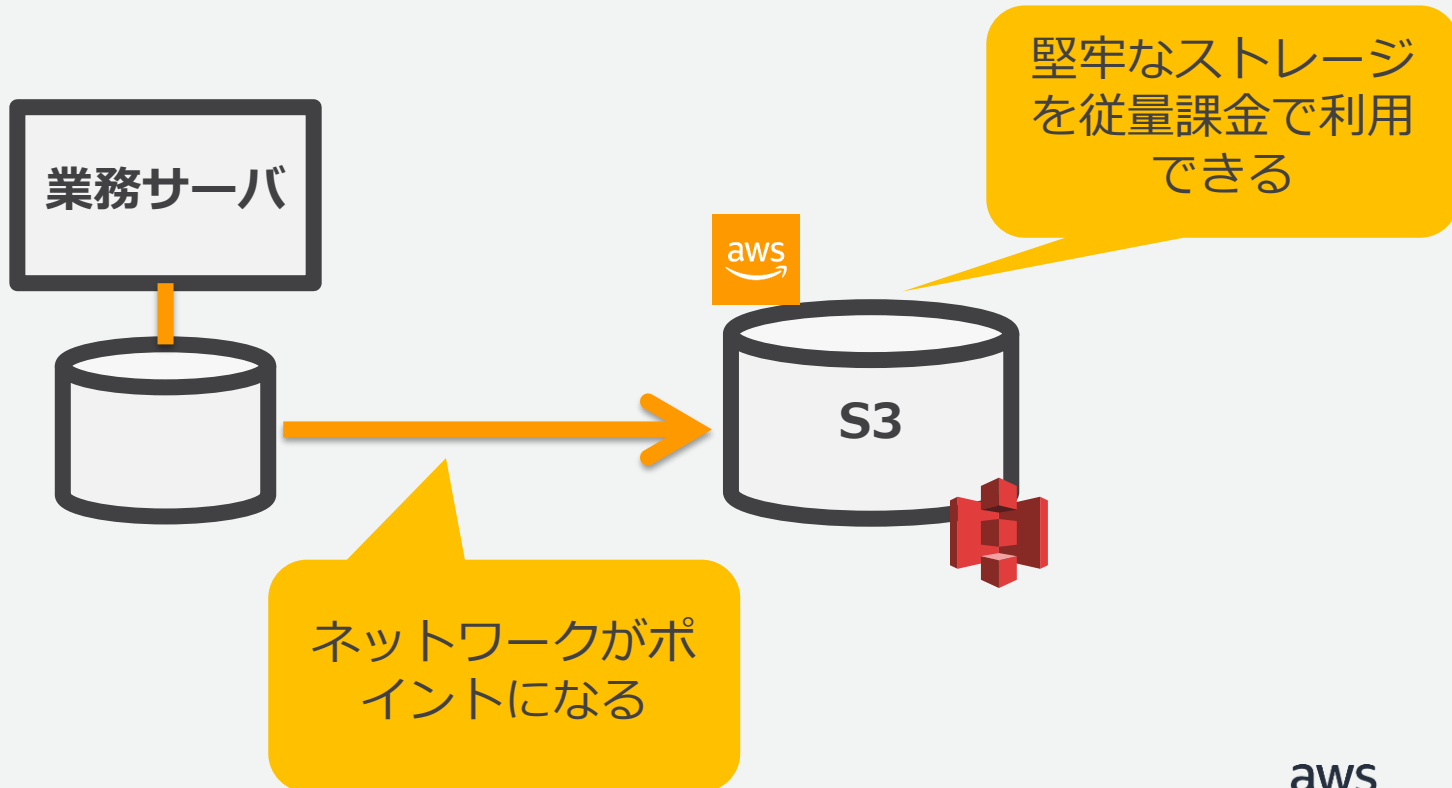
容量が不足してき
ている



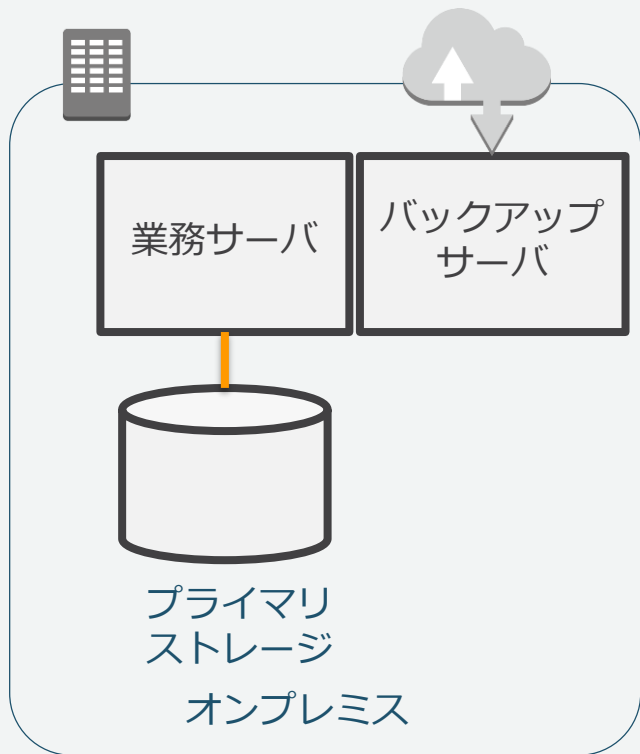
バックアップ
ストレージ

保守切れを迎えよ
うとしている

データ保護・移行パターン



S3 をバックアップストレージとして活用する



AWSアカウントを作成し、バックアップ用のS3バケットを作成する



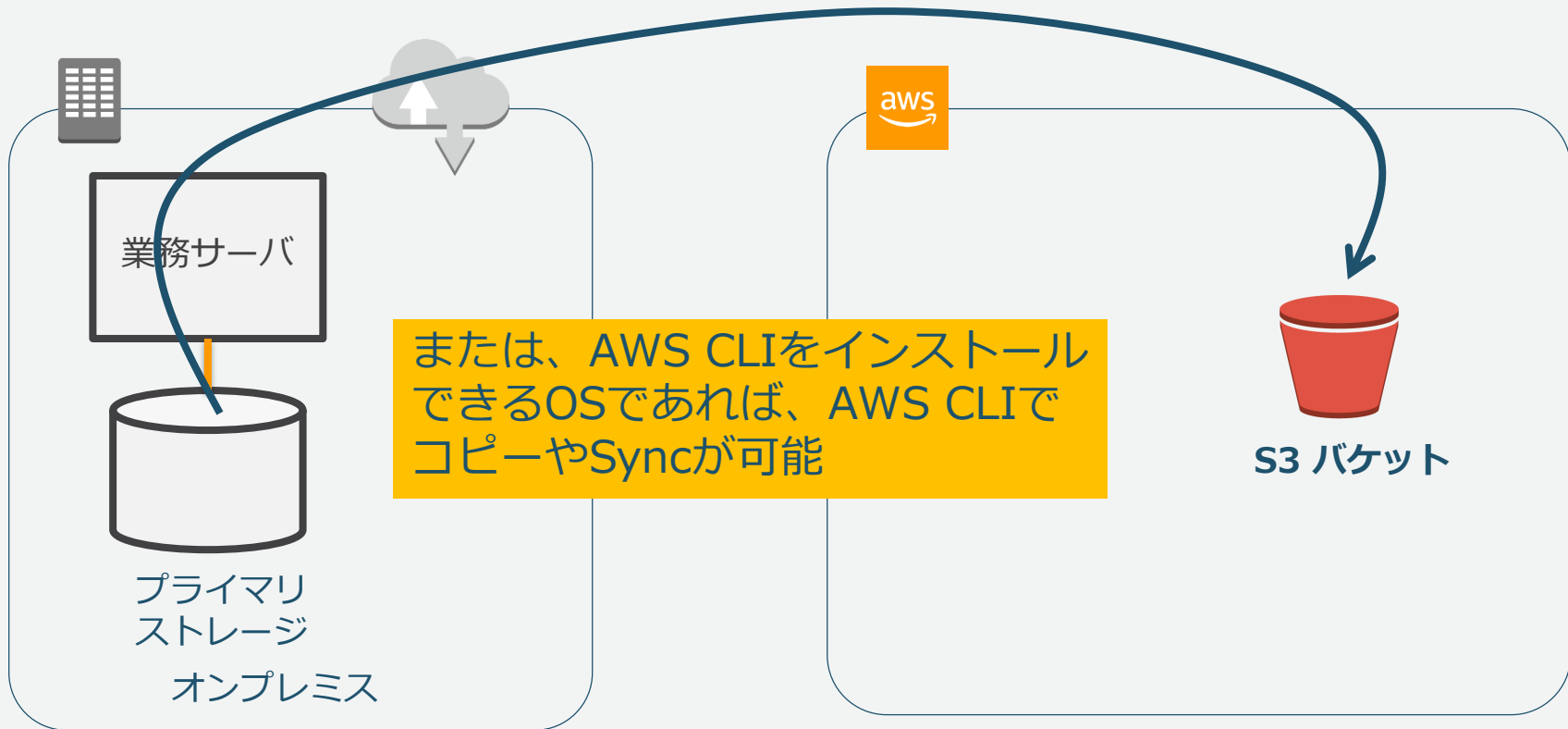
S3 バケット

バックアップソフトウェアがS3に対応していること

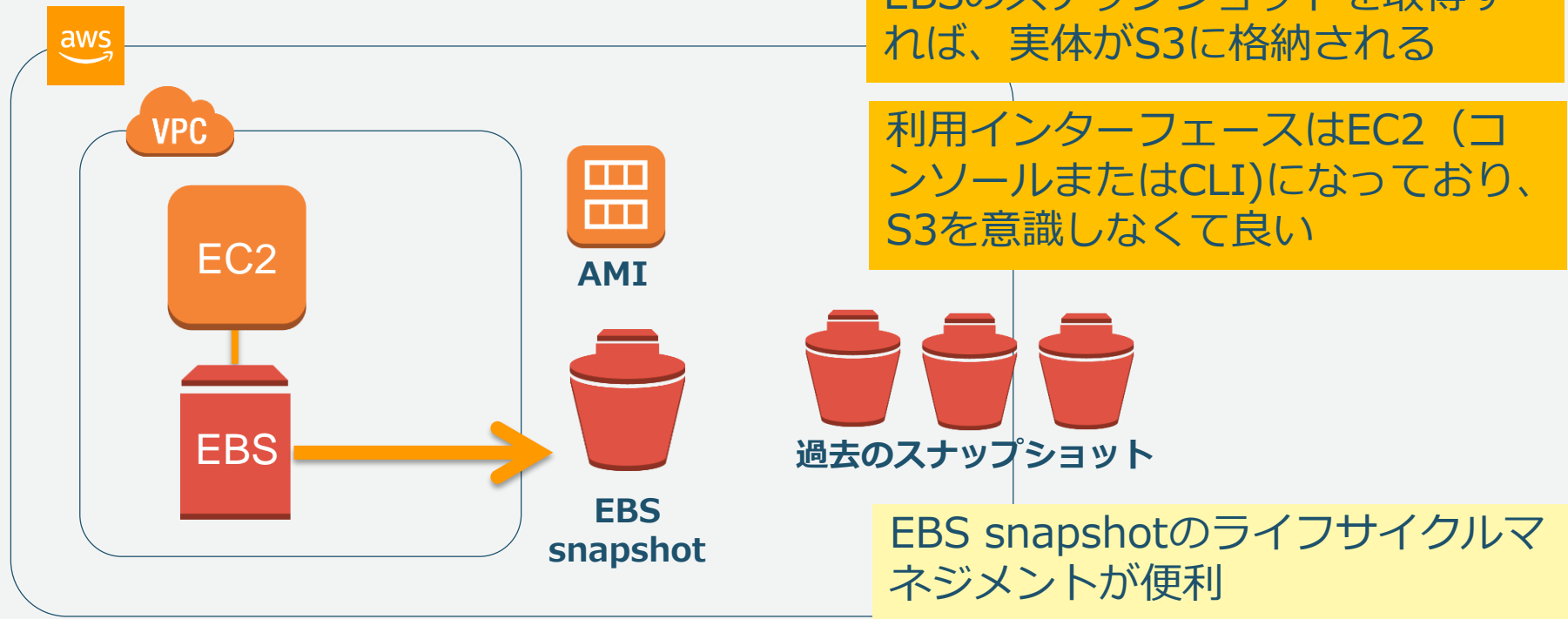


数多くのバックアップソフトウェアがバックアップ用デバイスとしてAmazon S3に対応している

業務サーバからAWS CLIにて直接S3へPUTする

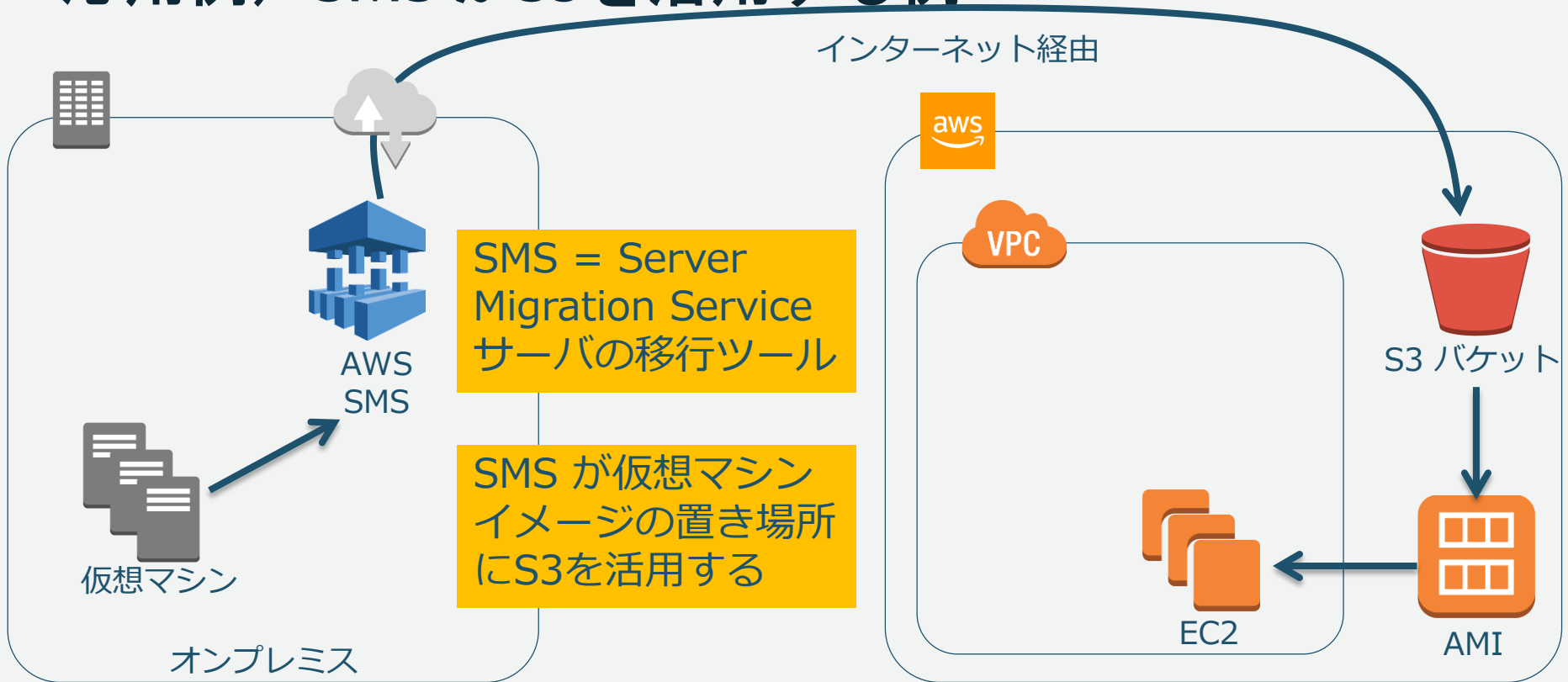


EC2で業務サーバを運用している場合



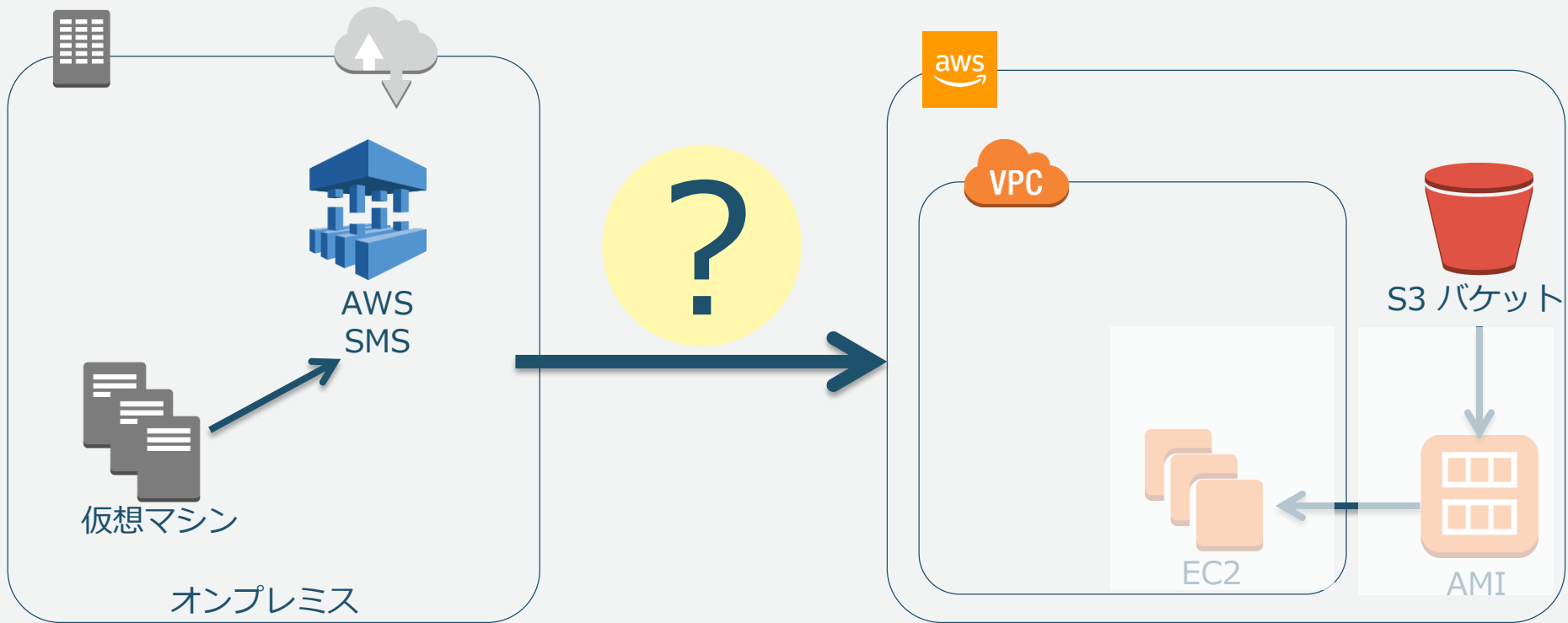
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/new-lifecycle-management-for-amazon-ebs-snapshots/>
2018.7月 : バージニア北部、オレゴン、アイルランドで対応

応用例) SMS がS3を活用する例



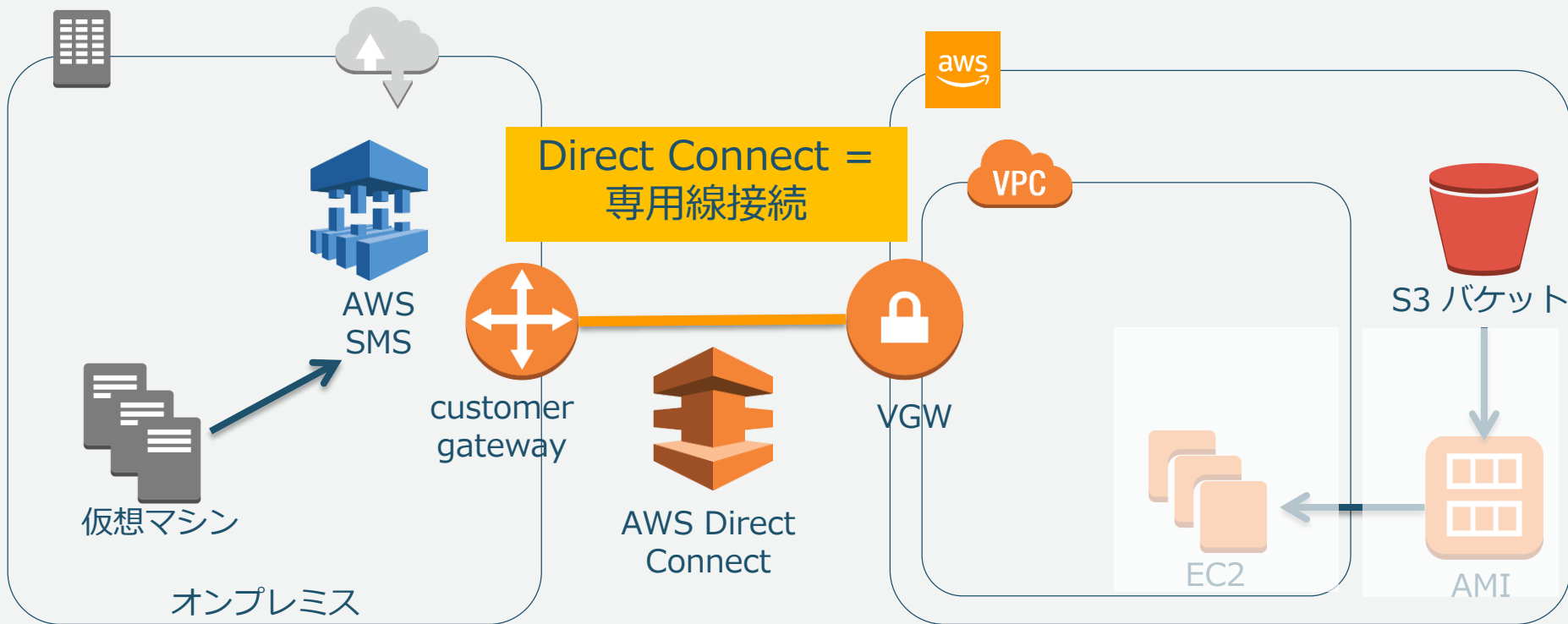
応用例) SMS がS3を活用する例

専用線経由で仮想マシンの移行をしたい



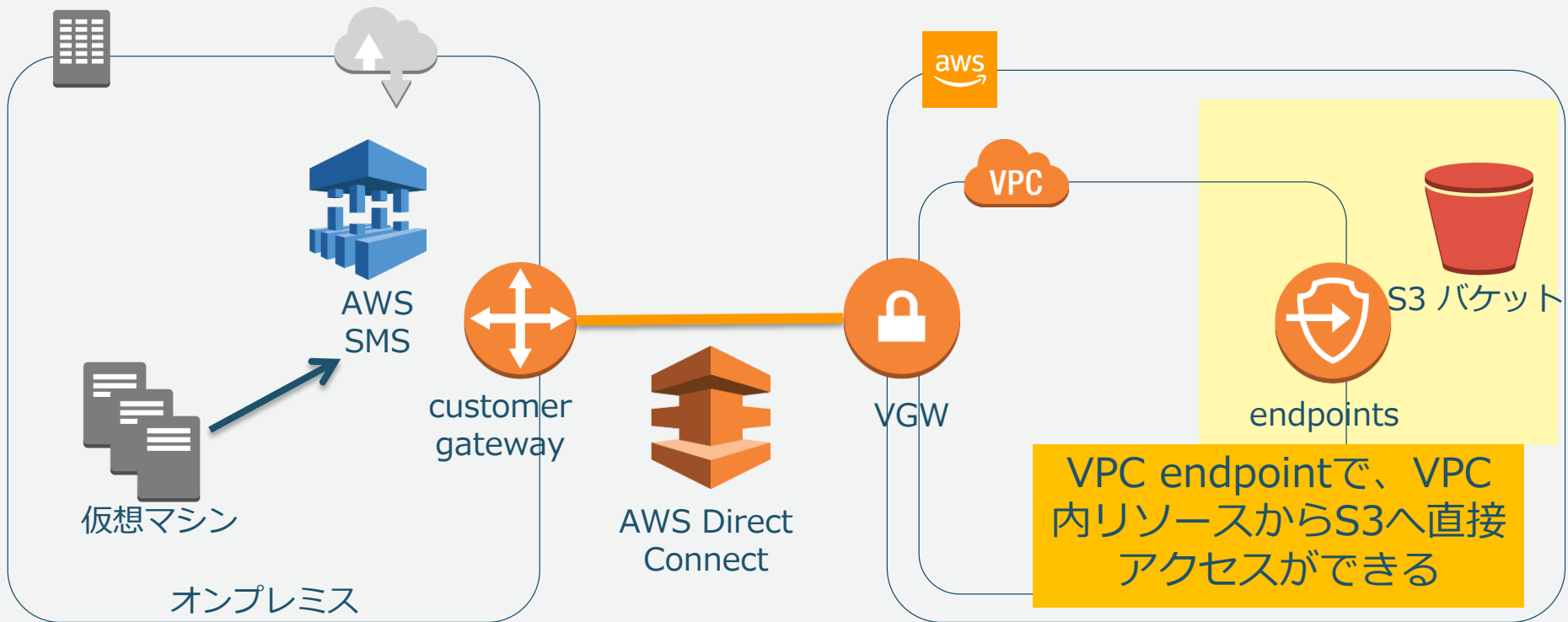
応用例) SMS がS3を活用する例

Direct ConnectにてVPCと接続



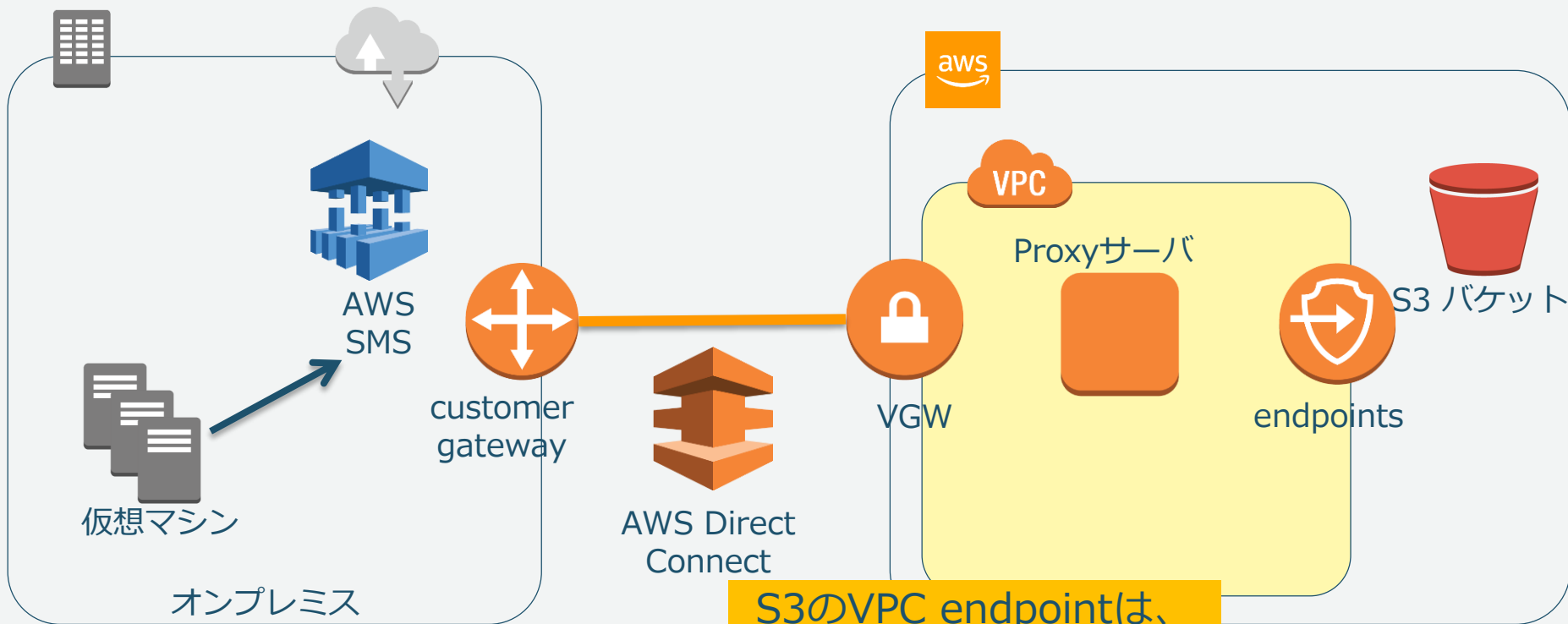
応用例) SMS がS3を活用する例

S3のVPC endpointをコンフィグレーション



応用例) SMS がS3を活用する例

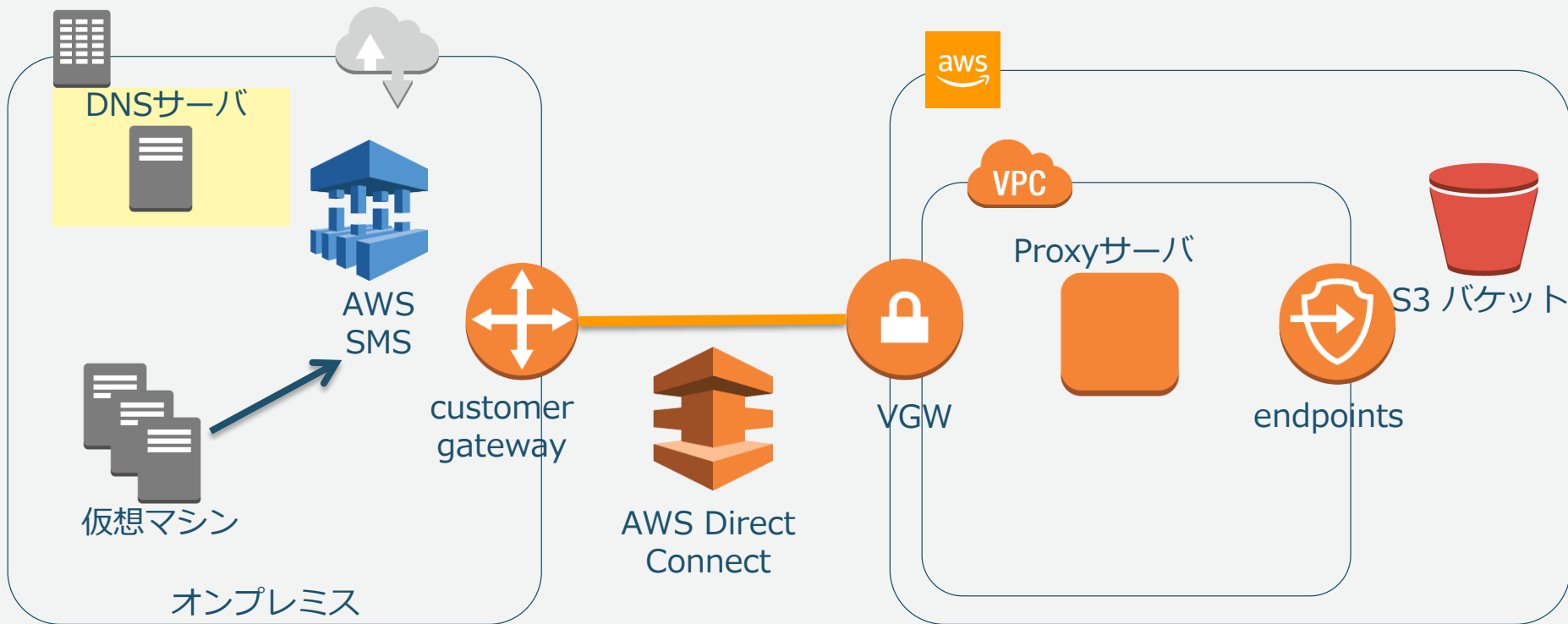
VPC endpoint へProxyするサーバを配置



S3のVPC endpointは、
VPC外リソースから直接
は利用できない

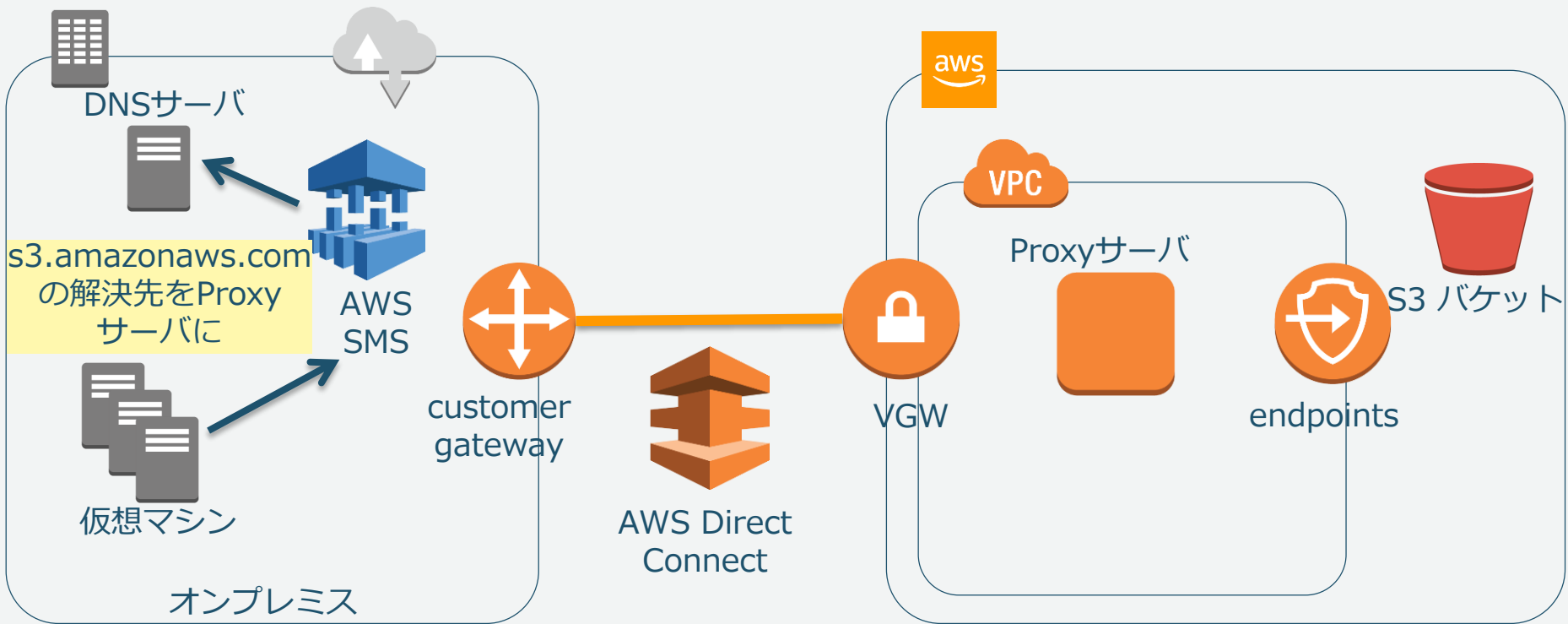
応用例) SMS がS3を活用する例

DNSサーバ管理者さんに相談



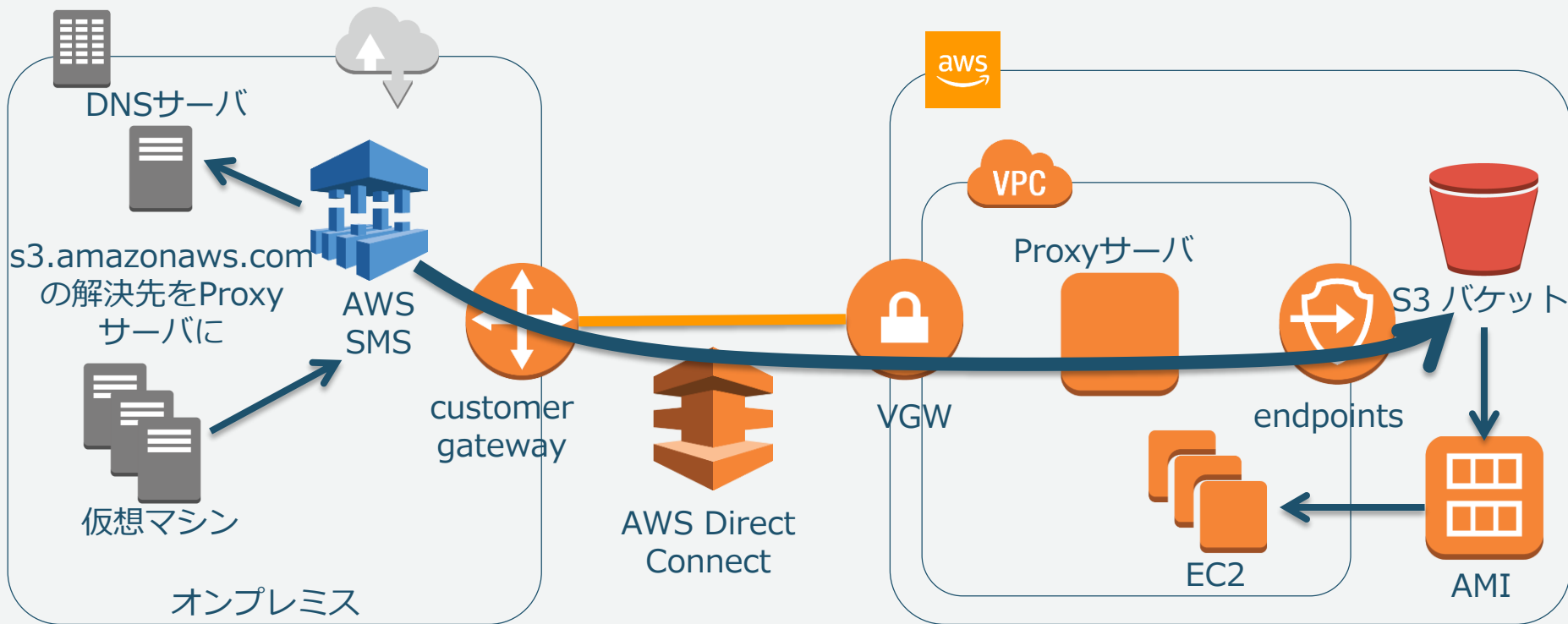
応用例) SMS がS3を活用する例

SMSが利用するS3への名前解決をProxyサーバに

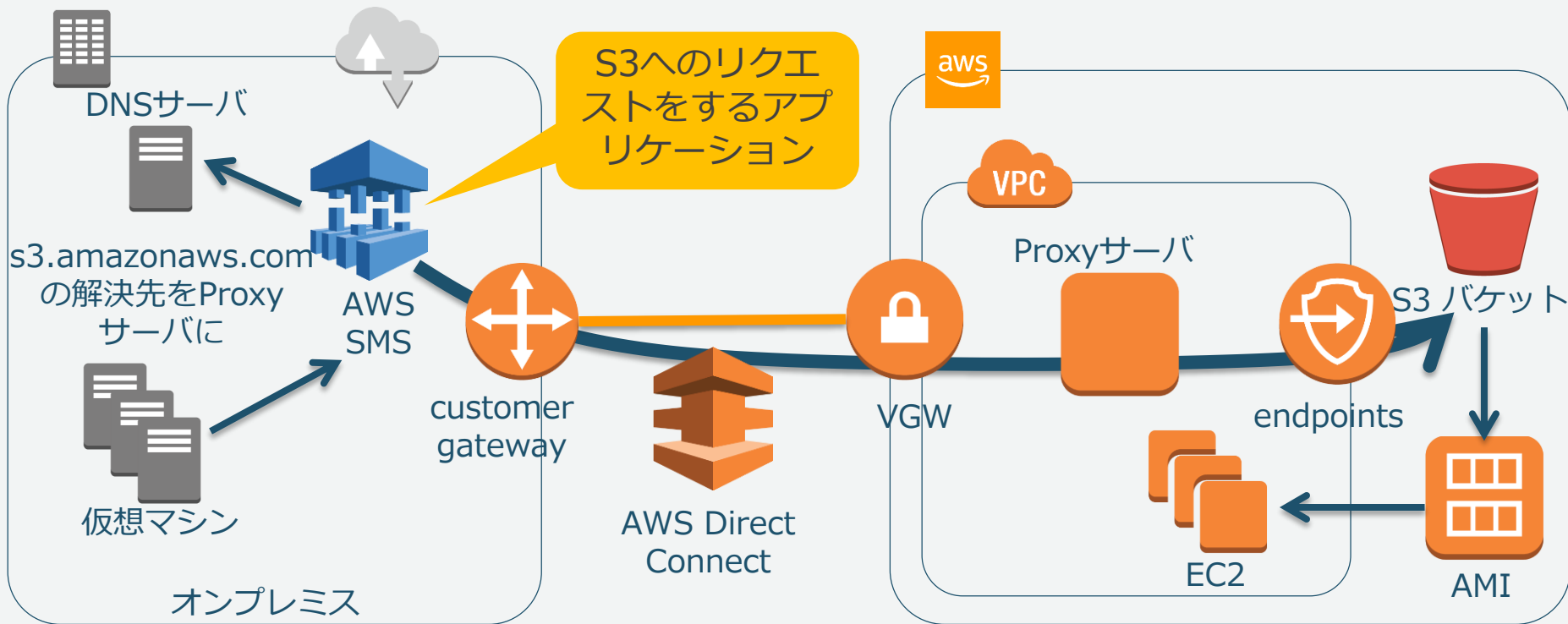


応用例) SMS がS3を活用する例

SMSの仮想マシンのイメージ転送がDirect Connect経由に



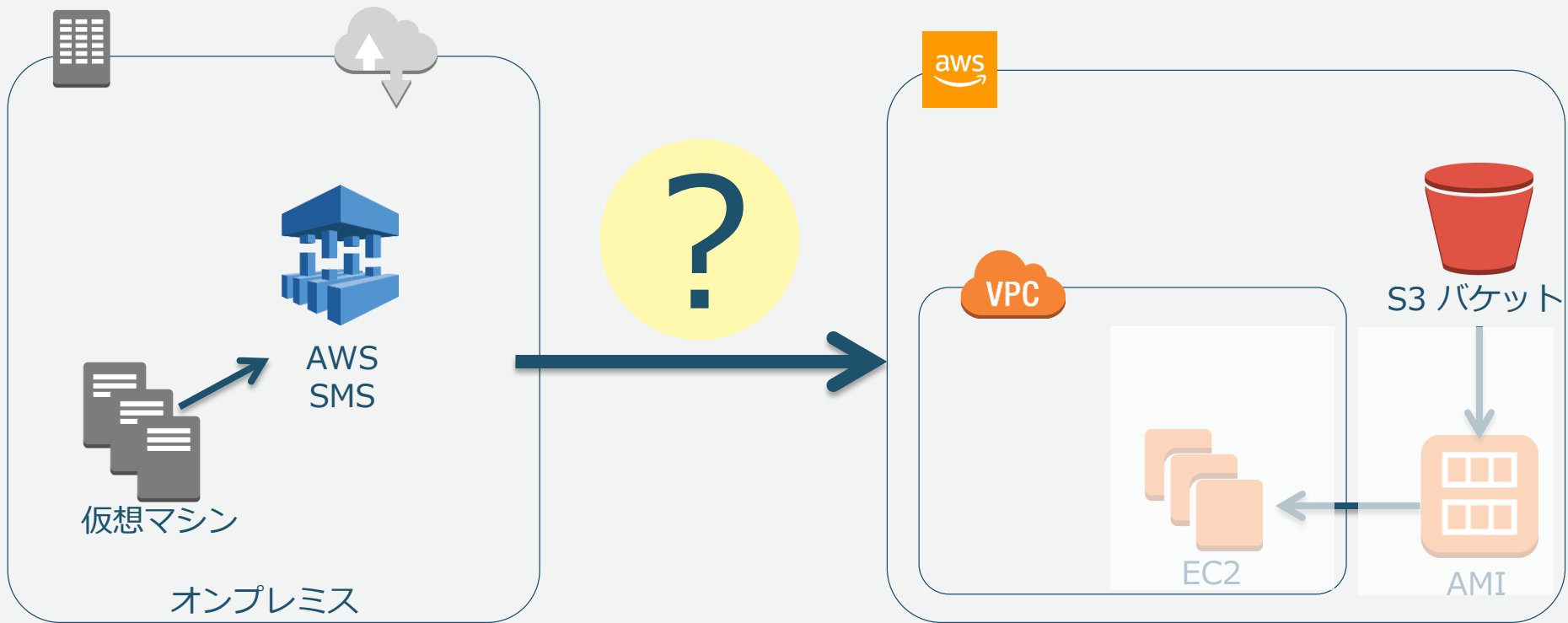
Accessing VPC Endpoints From Remote Networks



<https://aws.amazon.com/jp/answers/networking/accessing-vpc-endpoints-from-remote-networks/>

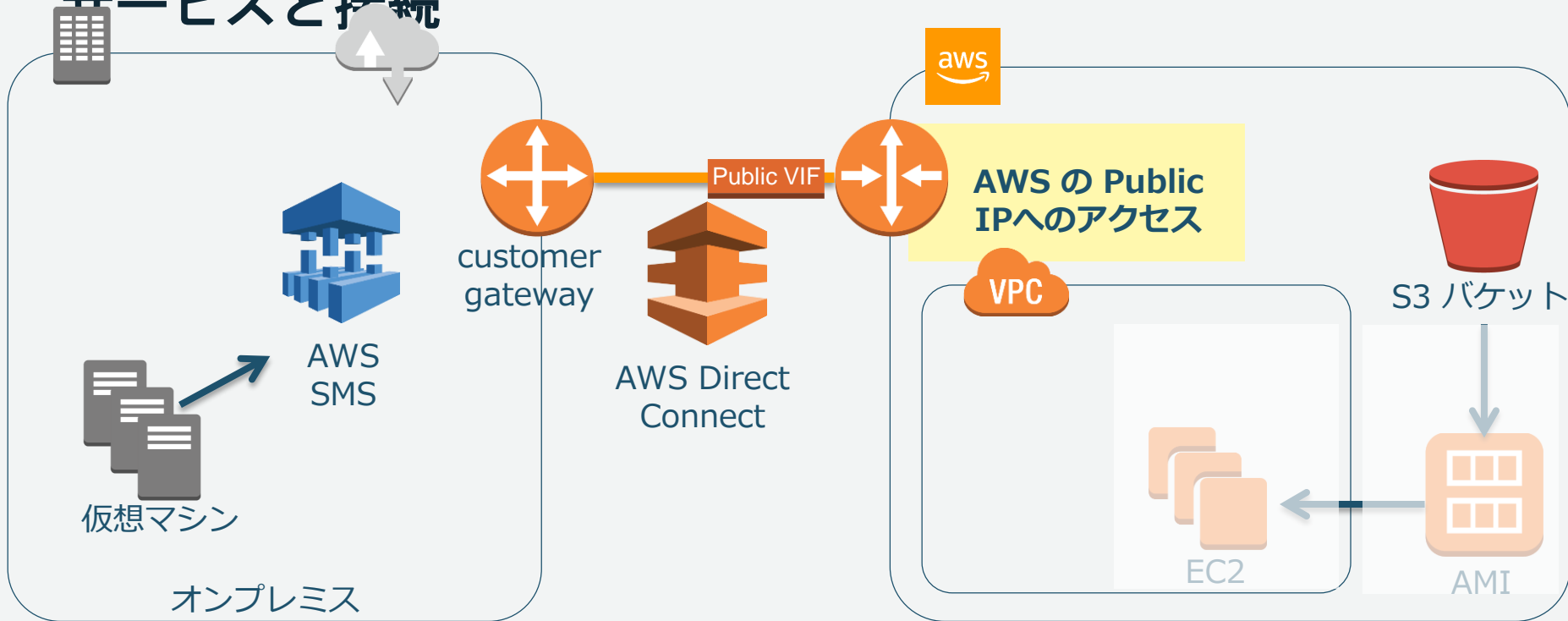
応用例) SMS が S3 を活用する例

専用線経由で仮想マシンの移行したい、その 2



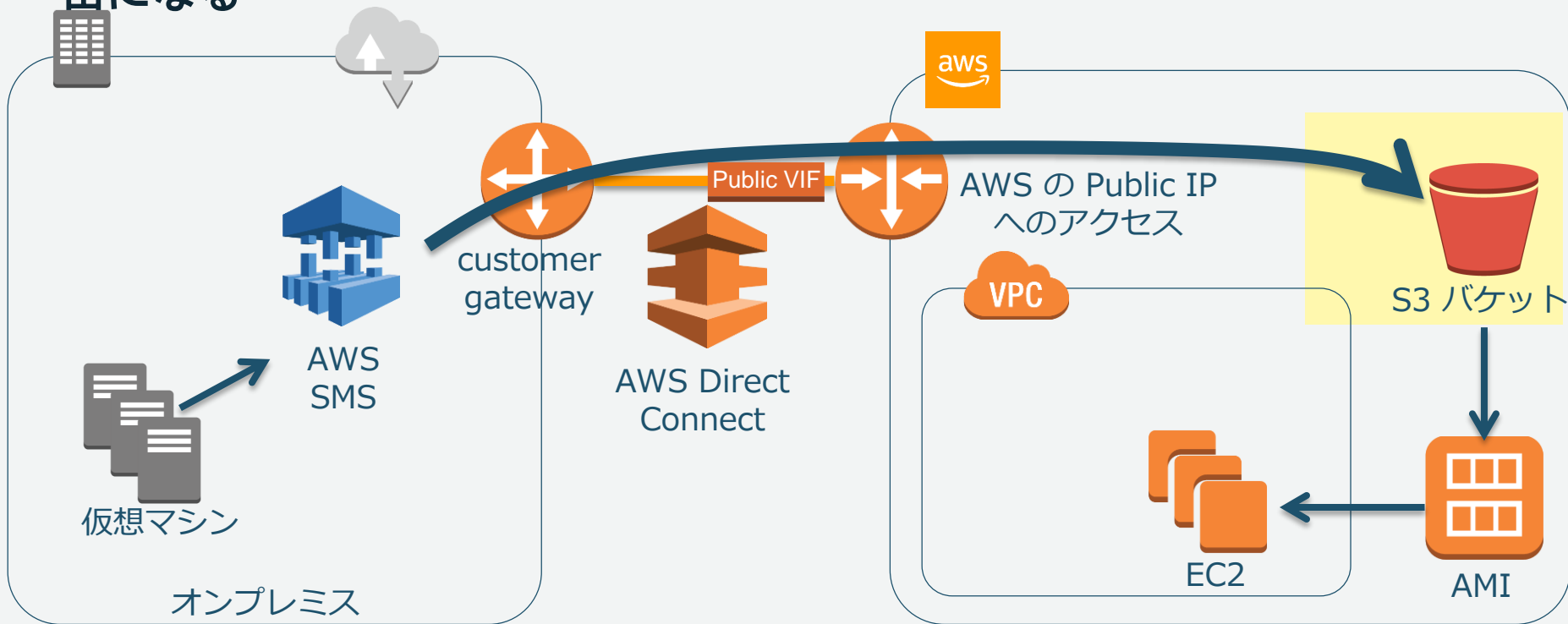
応用例) SMS がS3を活用する例

Direct Connect (パブリック接続)にてAWSのグローバルサービスと接続



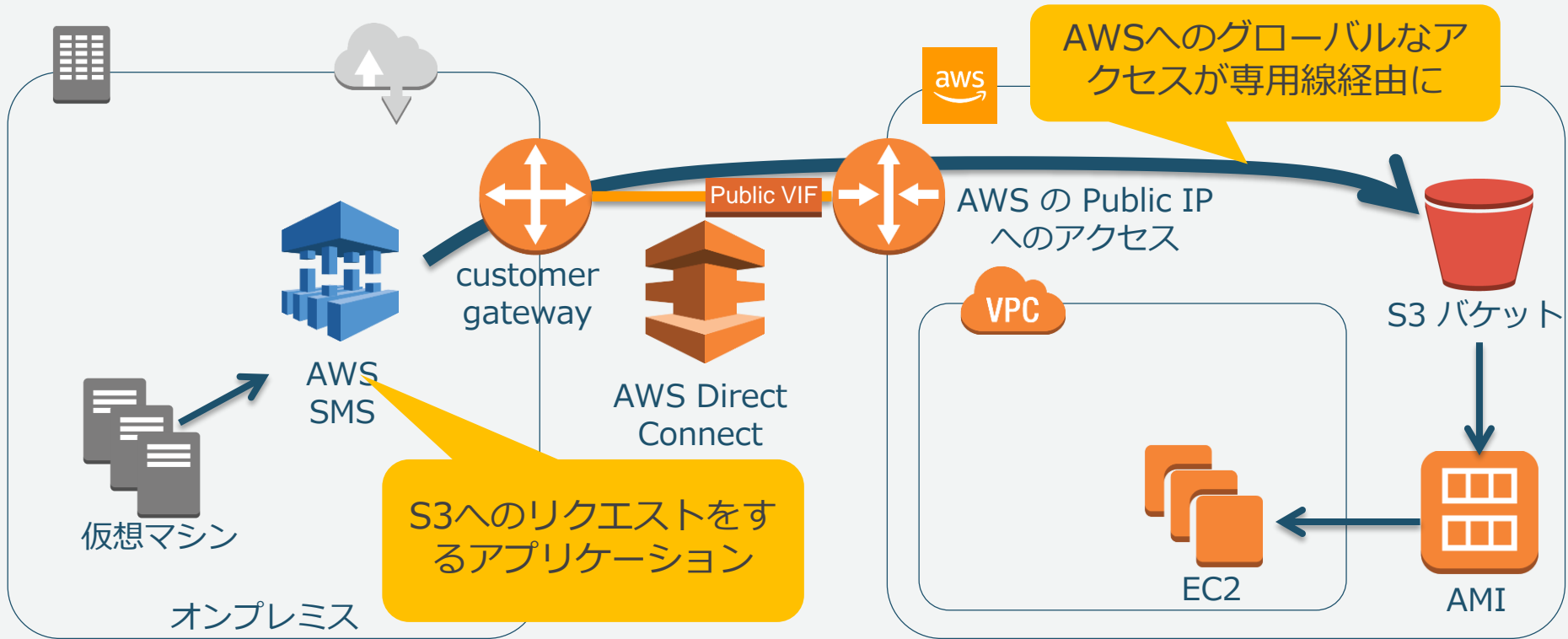
応用例) SMS が S3 を活用する例

SMSの仮想マシンのイメージ転送がパブリック接続のDirect Connect経由になる



応用例) SMS が S3 を活用する例

Publicなサービスに専用線で接続したい他のニーズでも便利

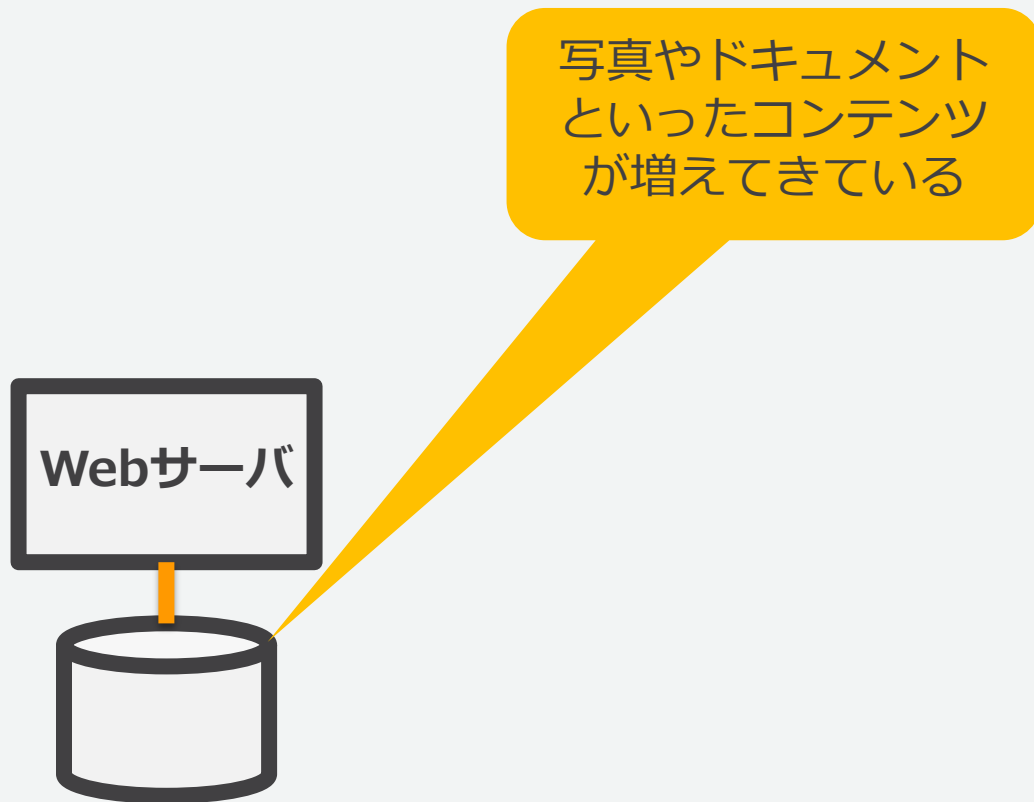


<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2017/11/aws-direct-connect-enables-global-access/>

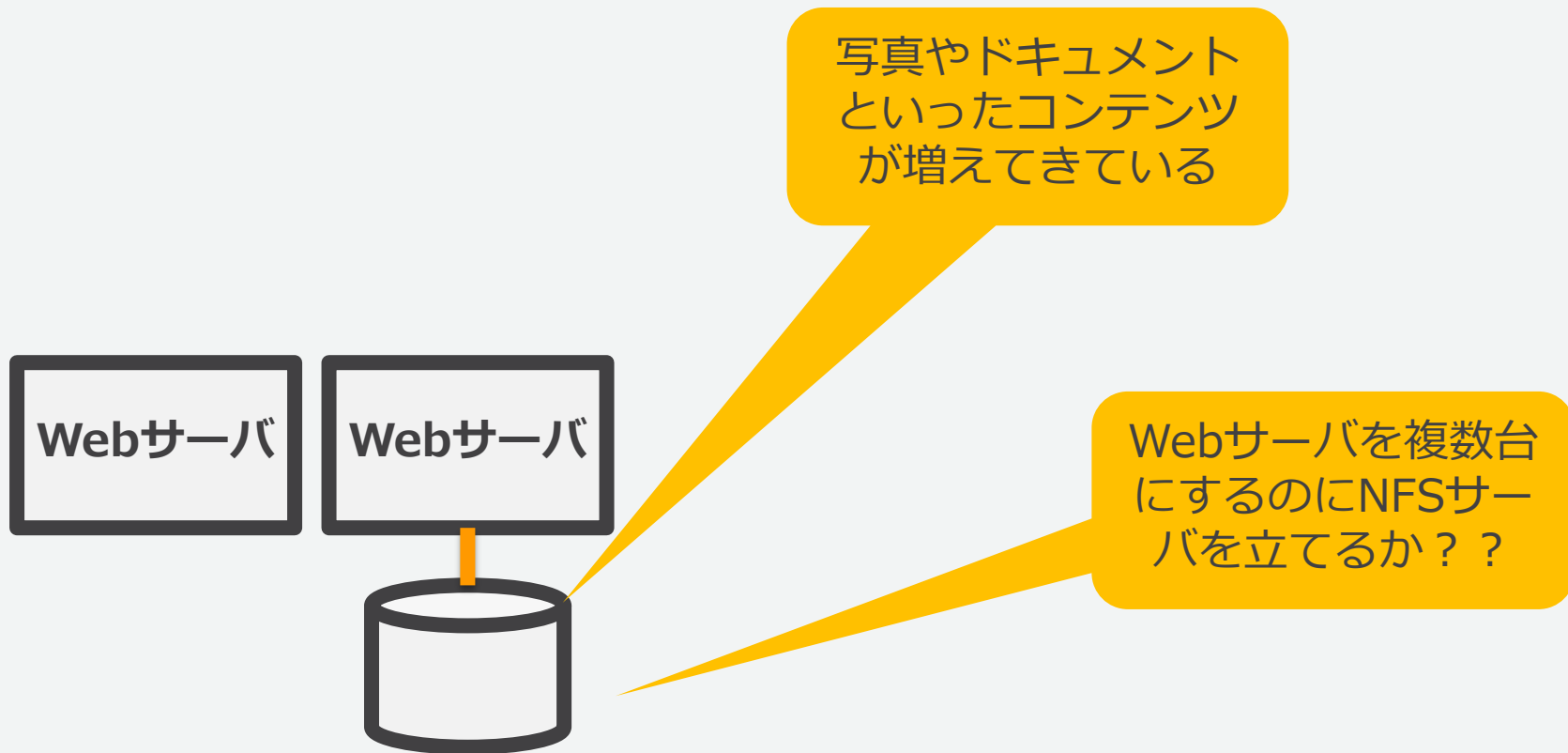
Agenda

- Amazon S3 おさらい
- **ユースケースからみるS3活用シーン**
 - 課題1：バックアップストレージが一杯になって困っている
 - **課題2：Webサーバのコンテンツが肥大化してきた**
 - 課題3：データベースが成長して、管理が難しくなってきた
- 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート

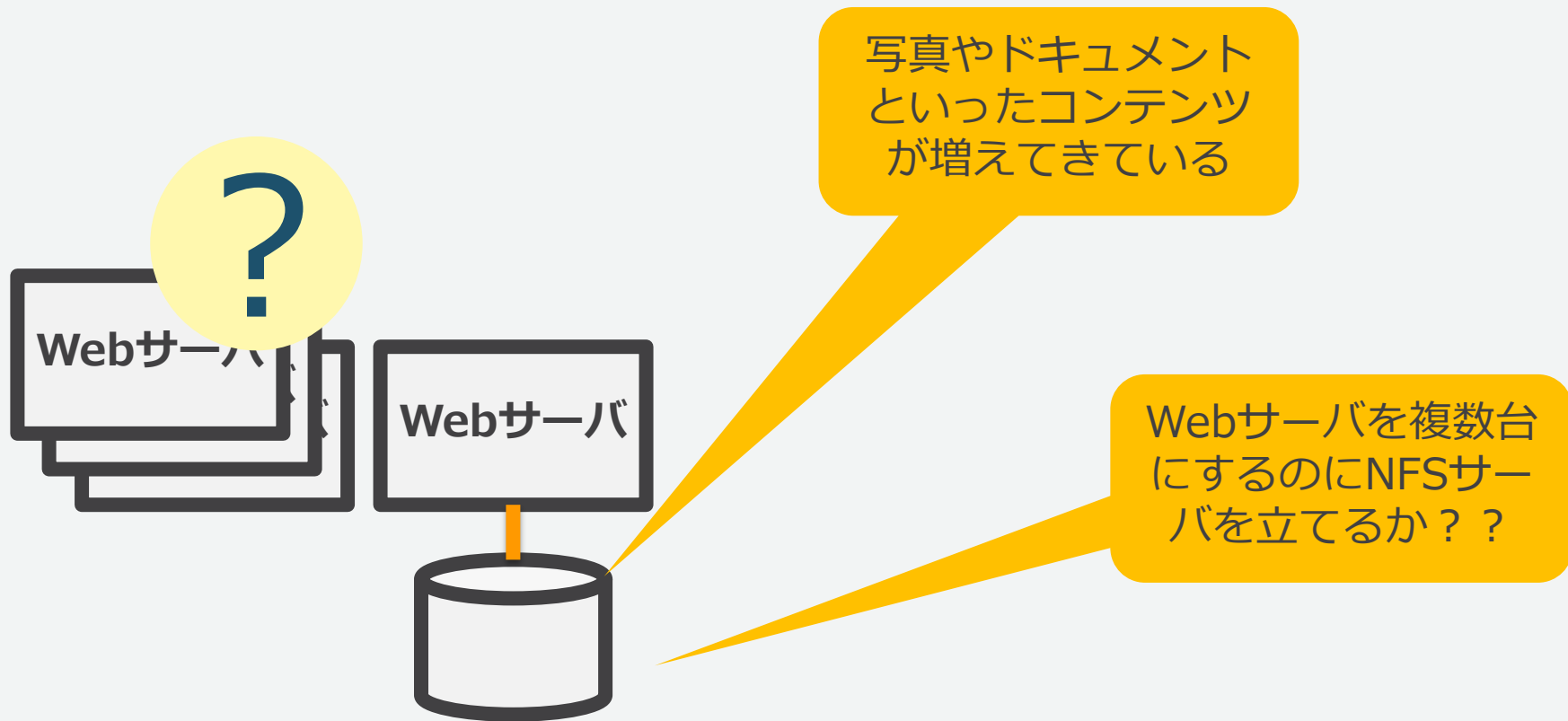
課題 2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた



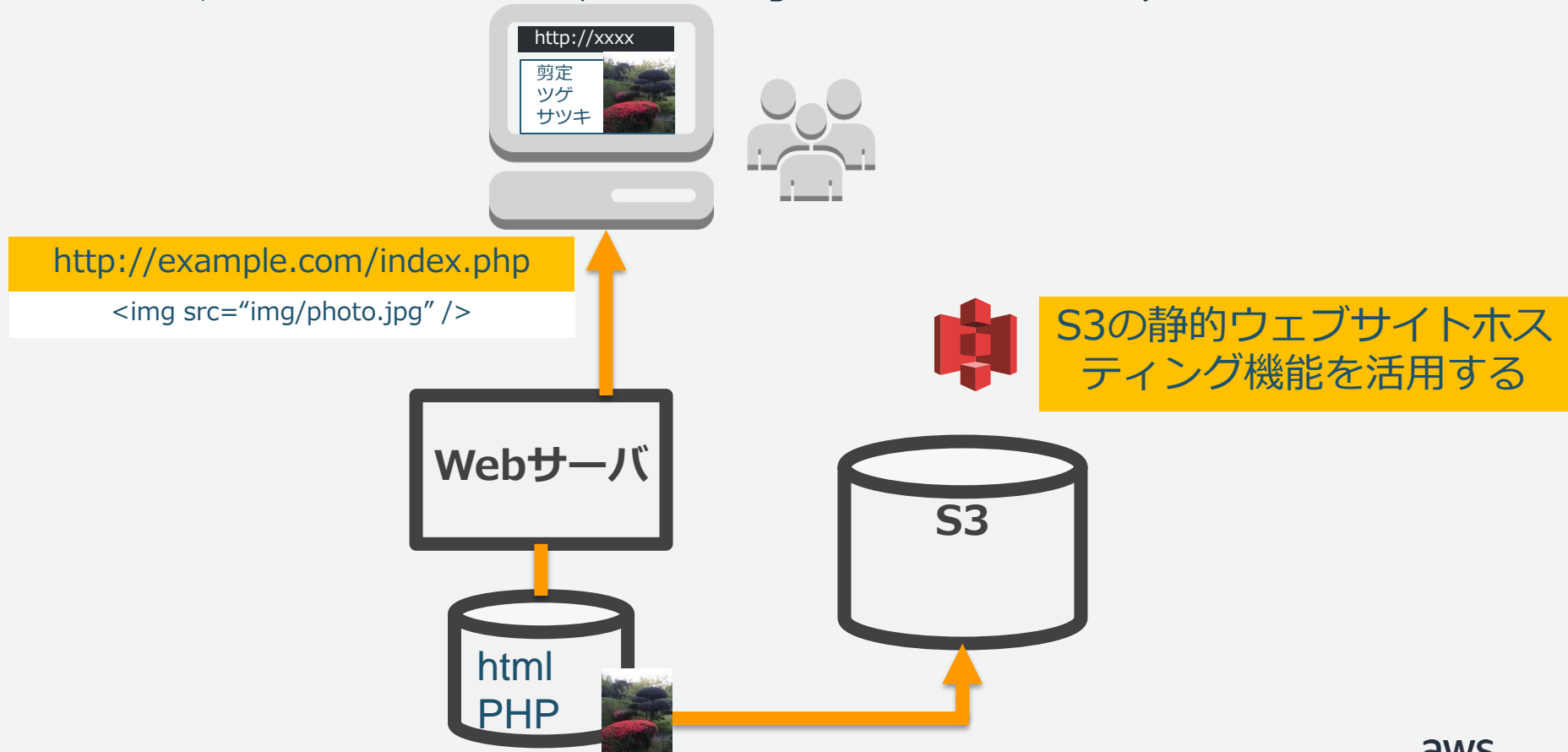
課題 2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた



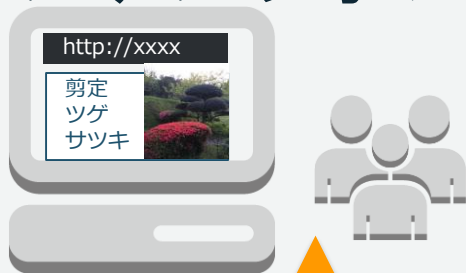
課題 2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた



Webサーバのコンテンツオフロードパターン



Webサーバのコンテンツオフロードパターン



`http://example.com/index.php`

`http://static.example.com/img/photo.jpg`

``

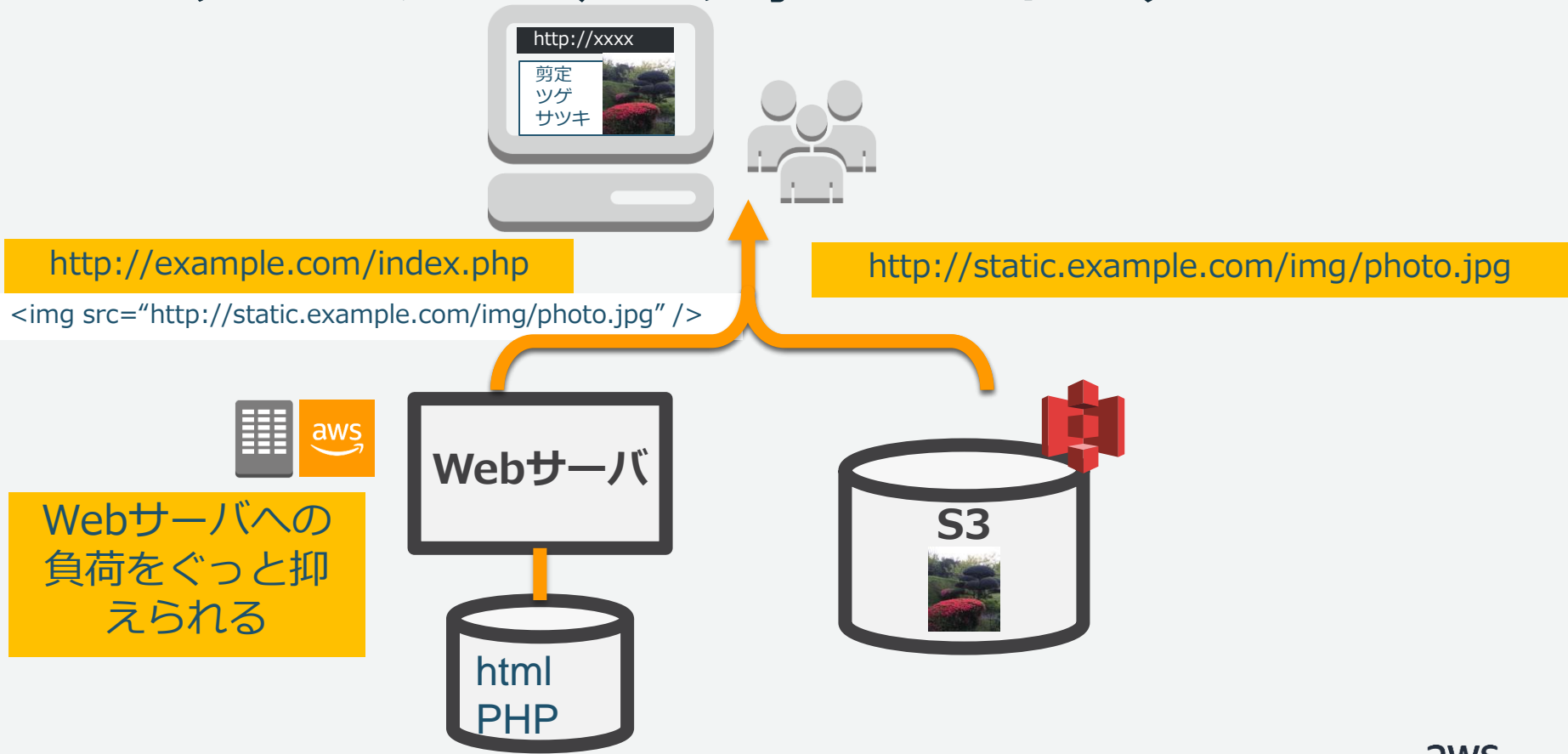
~~``~~



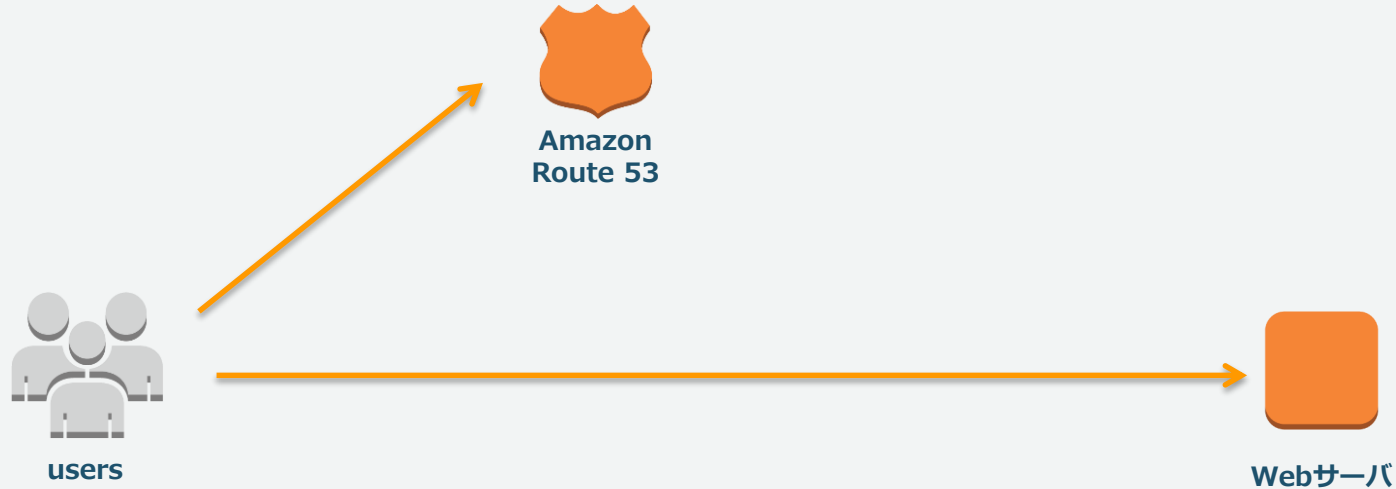
S3に容量の大きなファイル（写真やドキュメントなど）を配置する



Webサーバのコンテンツオフロードパターン

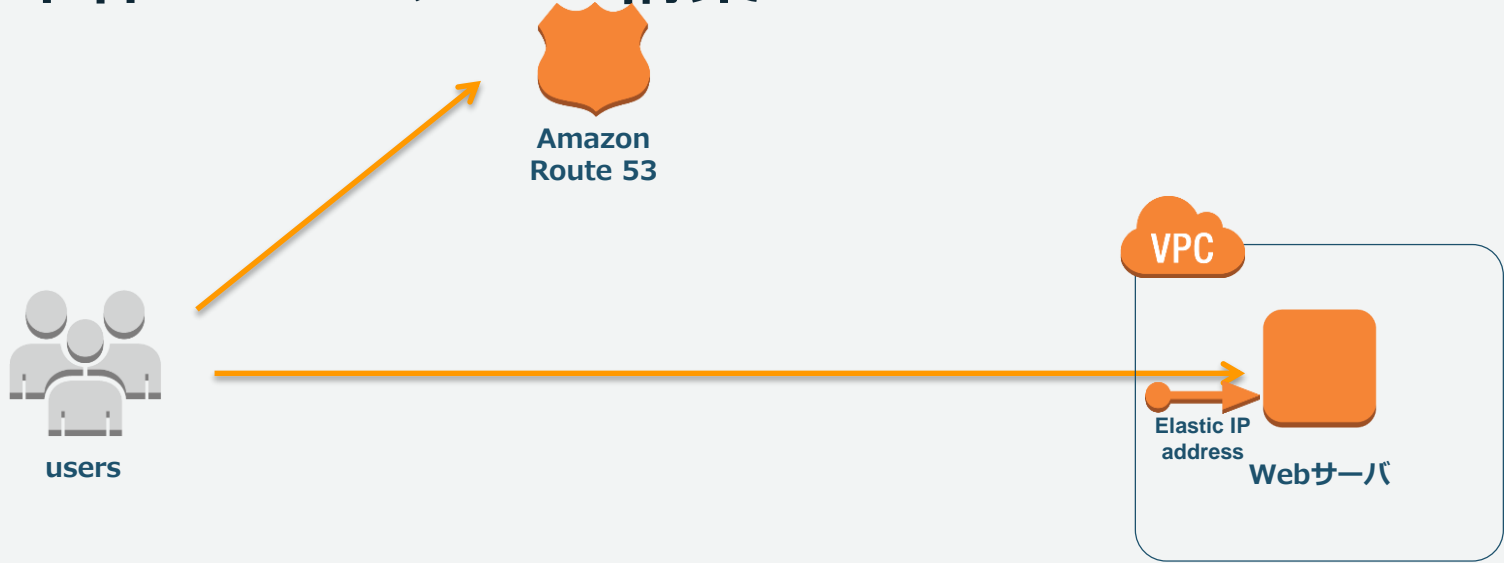


応用例) Webサーバの成長



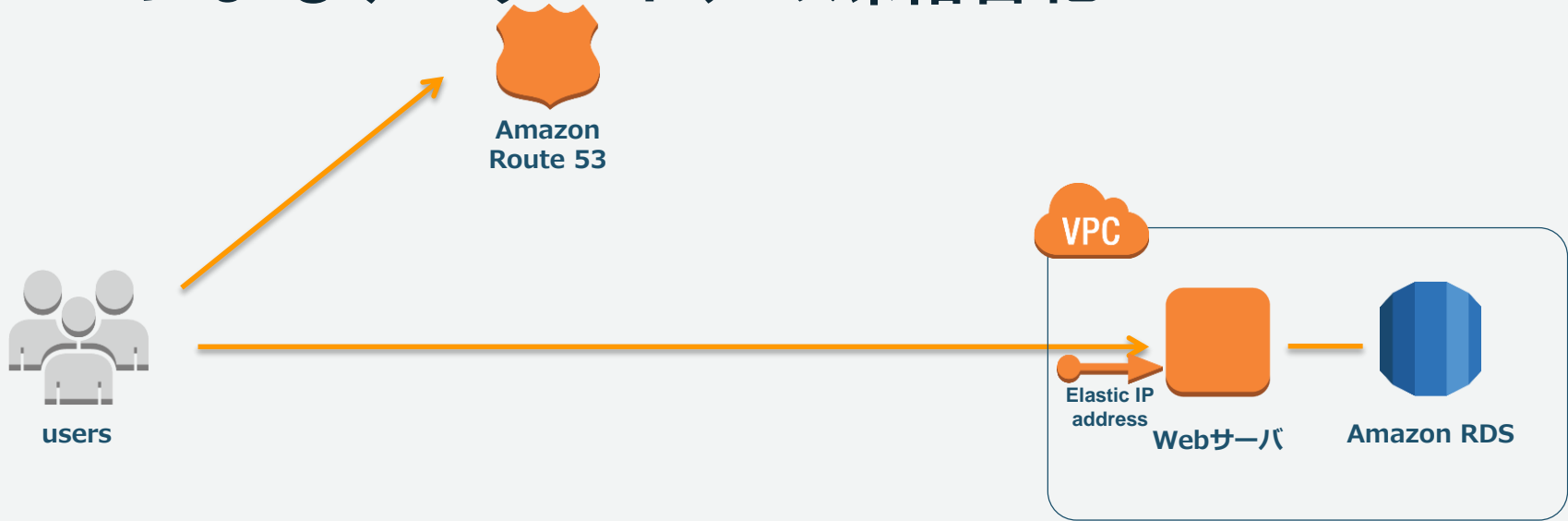
応用例) Webサーバの成長

単体のWebサーバ構築



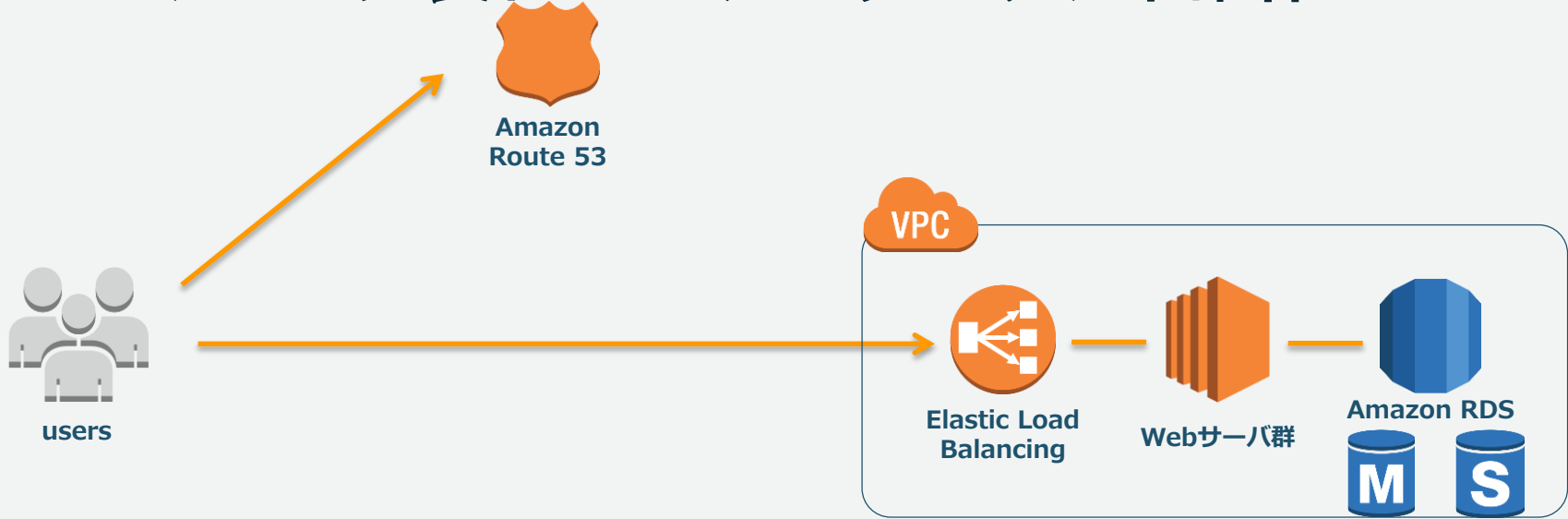
応用例) Webサーバの成長

RDSによるデータストアの疎結合化



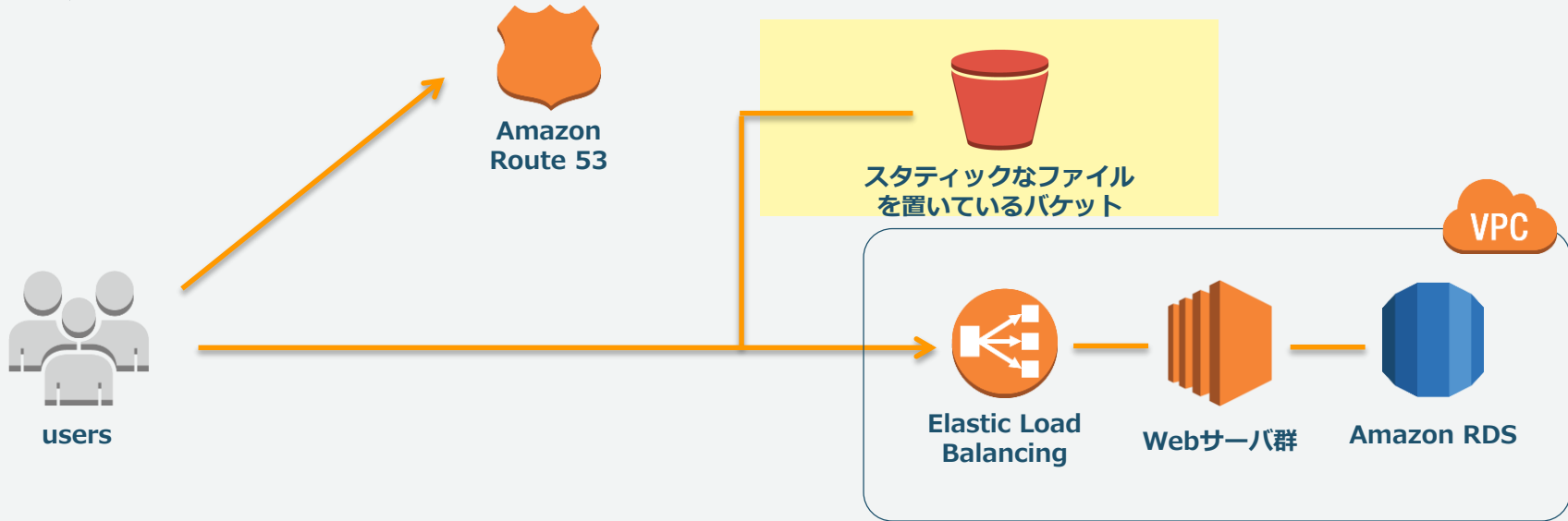
応用例) Webサーバの成長

システムの冗長化とスケーラビリティ確保



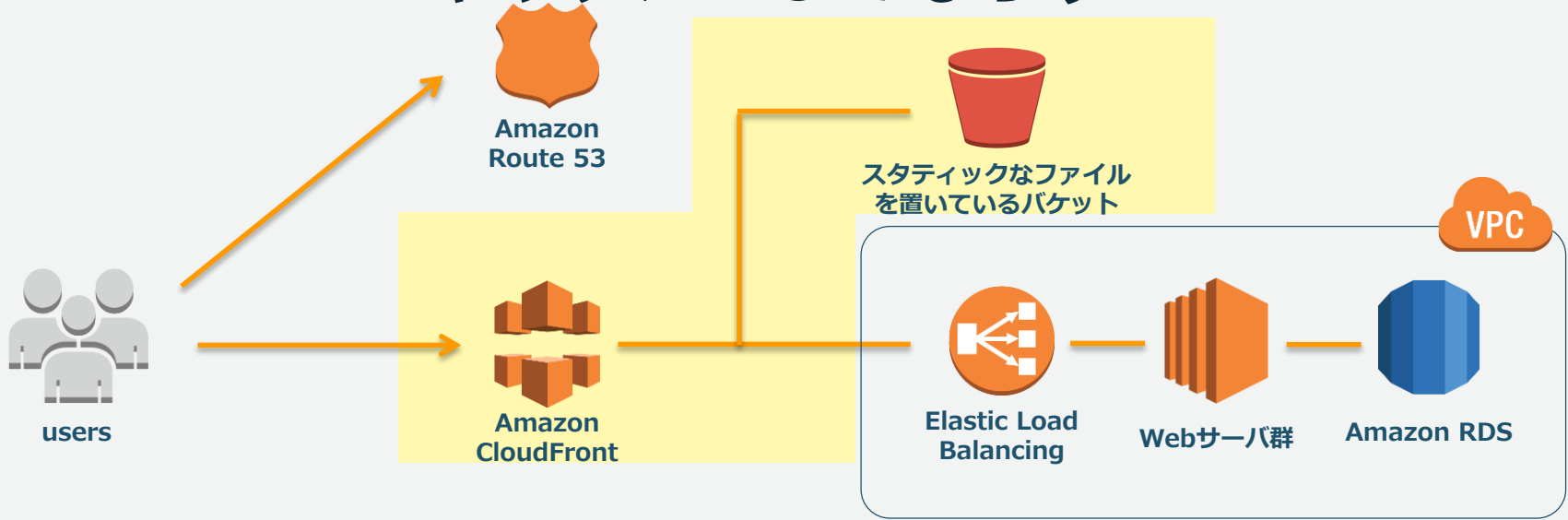
応用例) Webサーバの成長

写真やドキュメントといったコンテンツをS3へオフロード



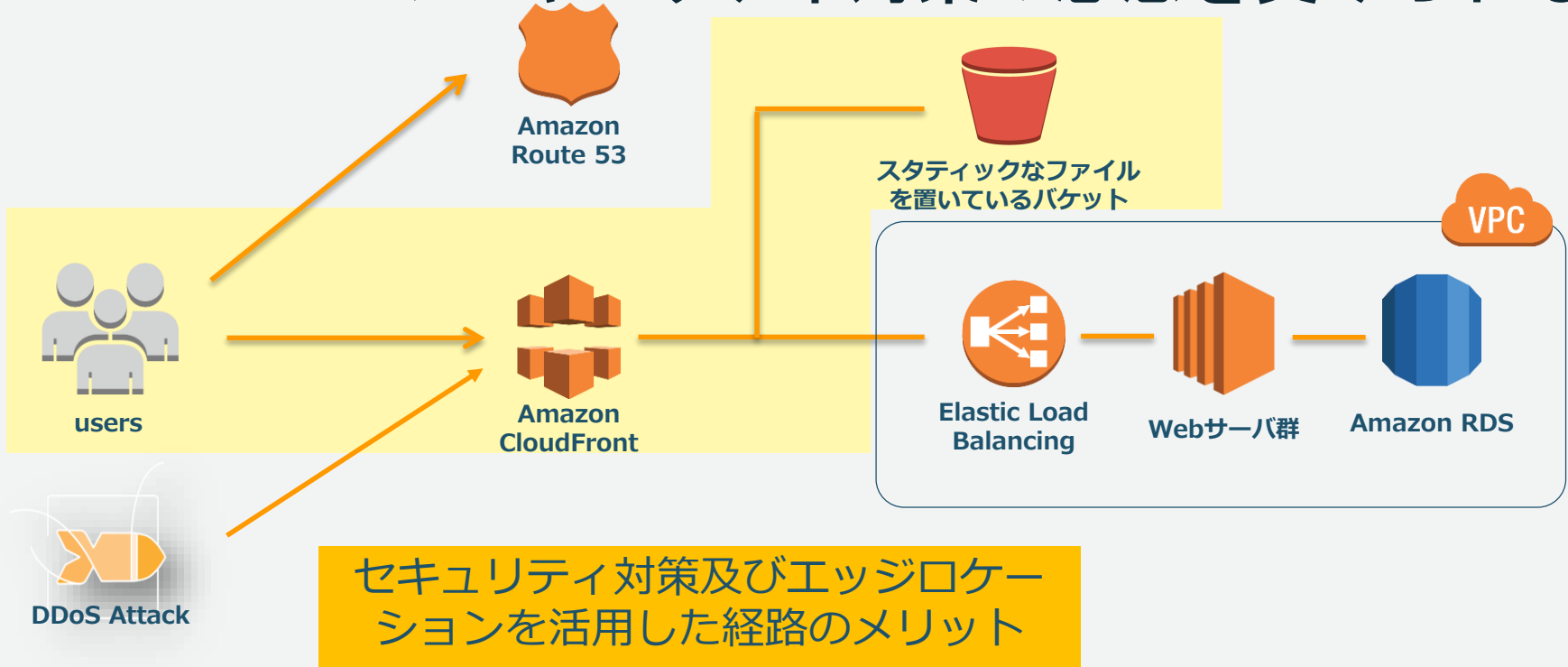
応用例) Webサーバの成長

CloudFrontにキャッシュしてもらおう



応用例) Webサーバの成長

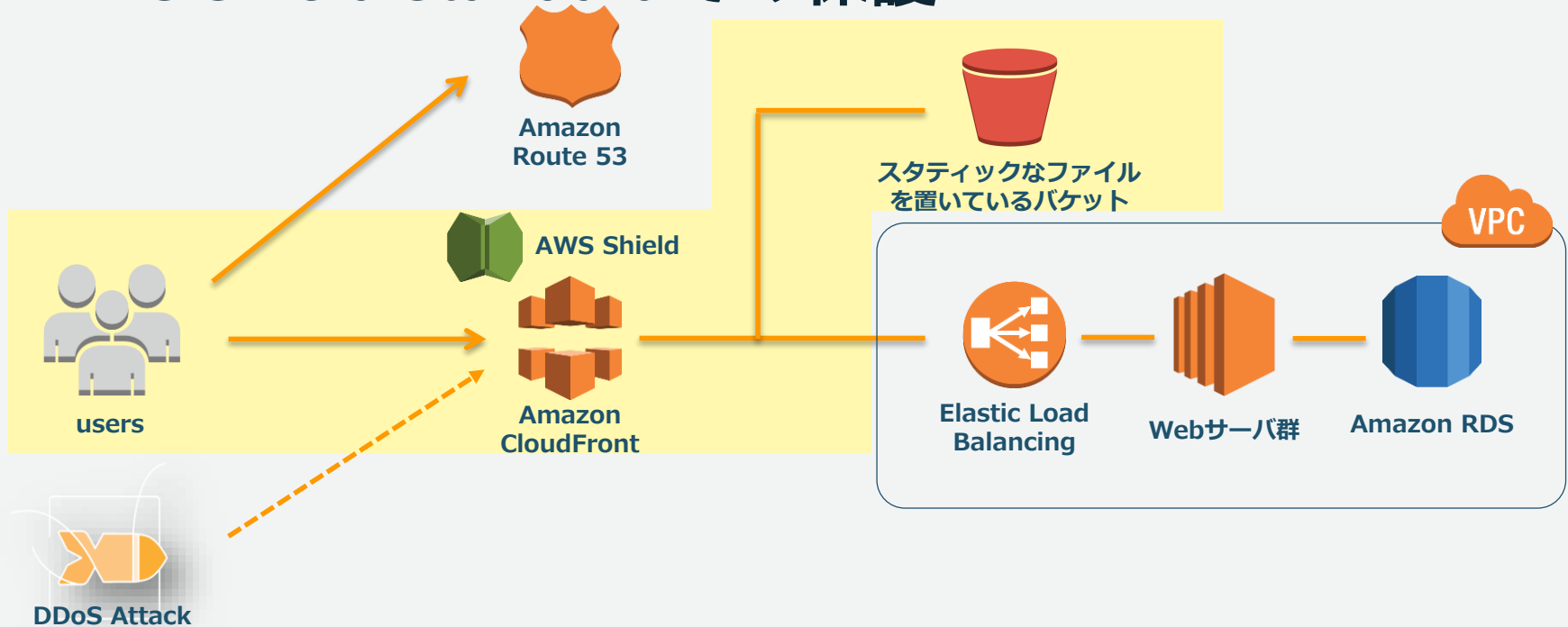
CloudFrontのセキュリティ対策の恩恵を受けられる



セキュリティ対策及びエッジロケーションを活用した経路のメリット

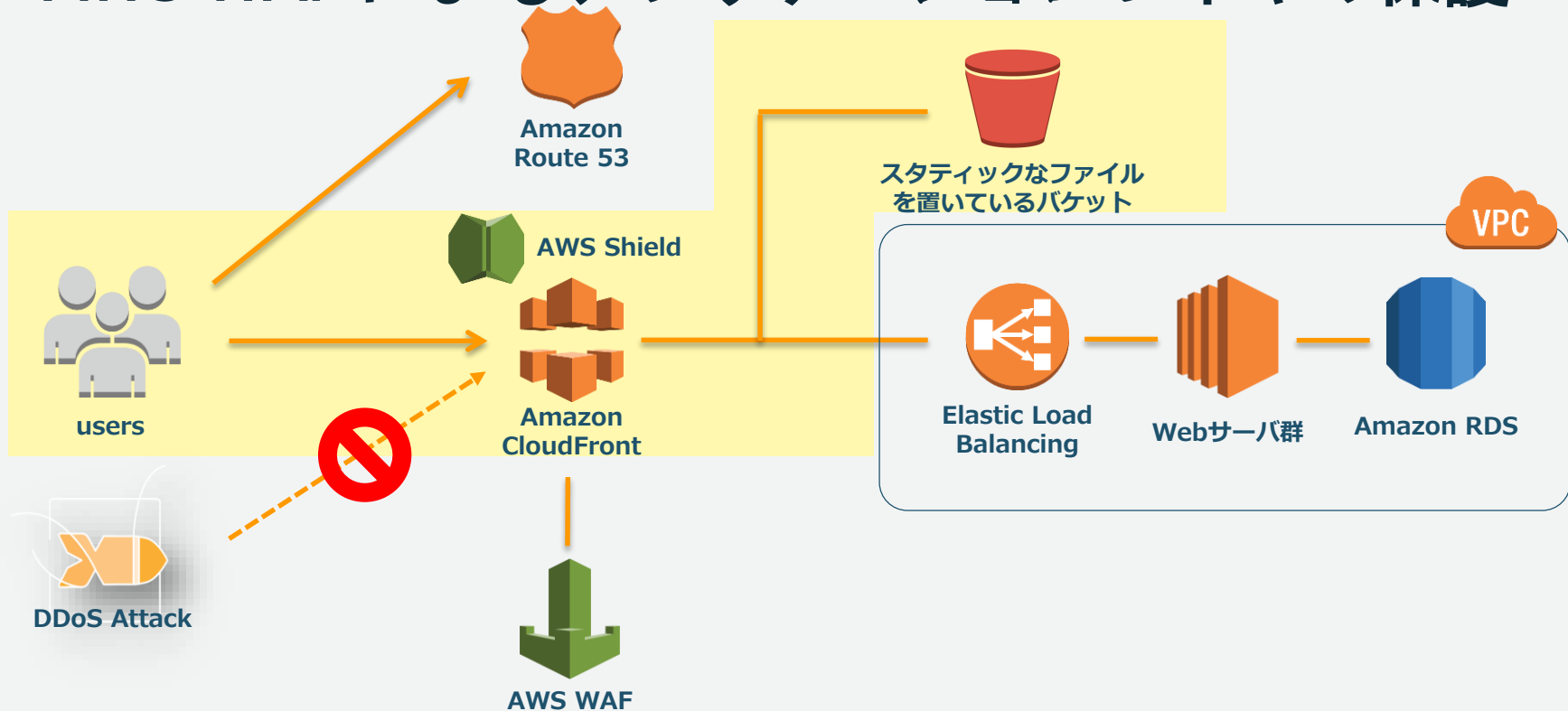
応用例) Webサーバの成長

AWS Shield Standardでの保護



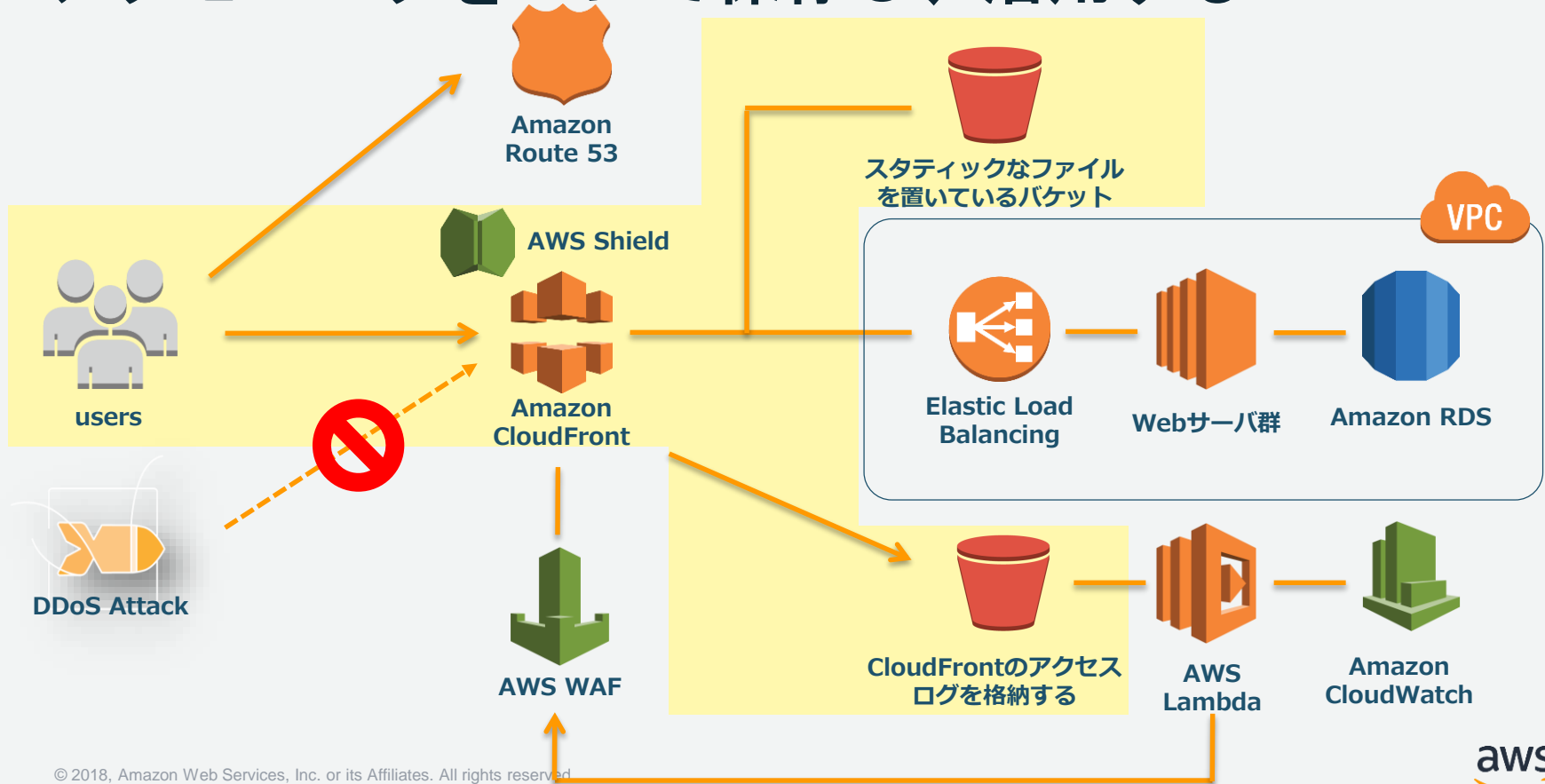
応用例) Webサーバの成長

AWS WAF によるアプリケーションレイヤの保護



応用例) Webサーバの成長

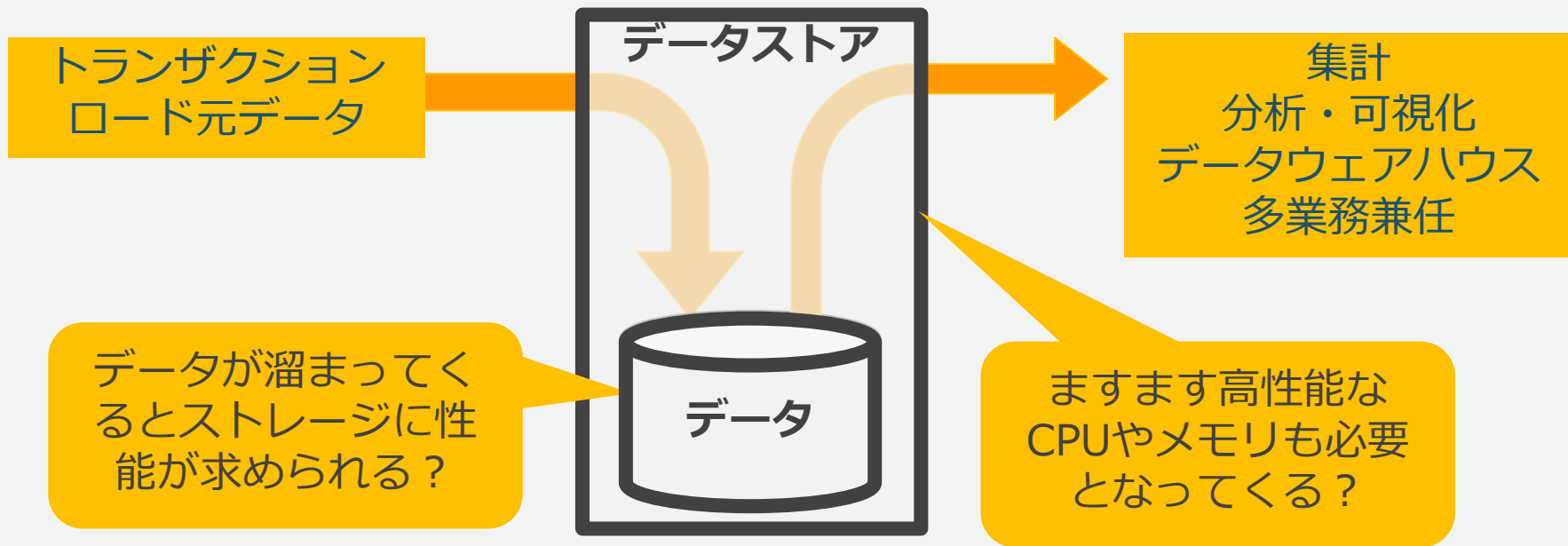
アクセスログをS3にて保存し、活用する



Agenda

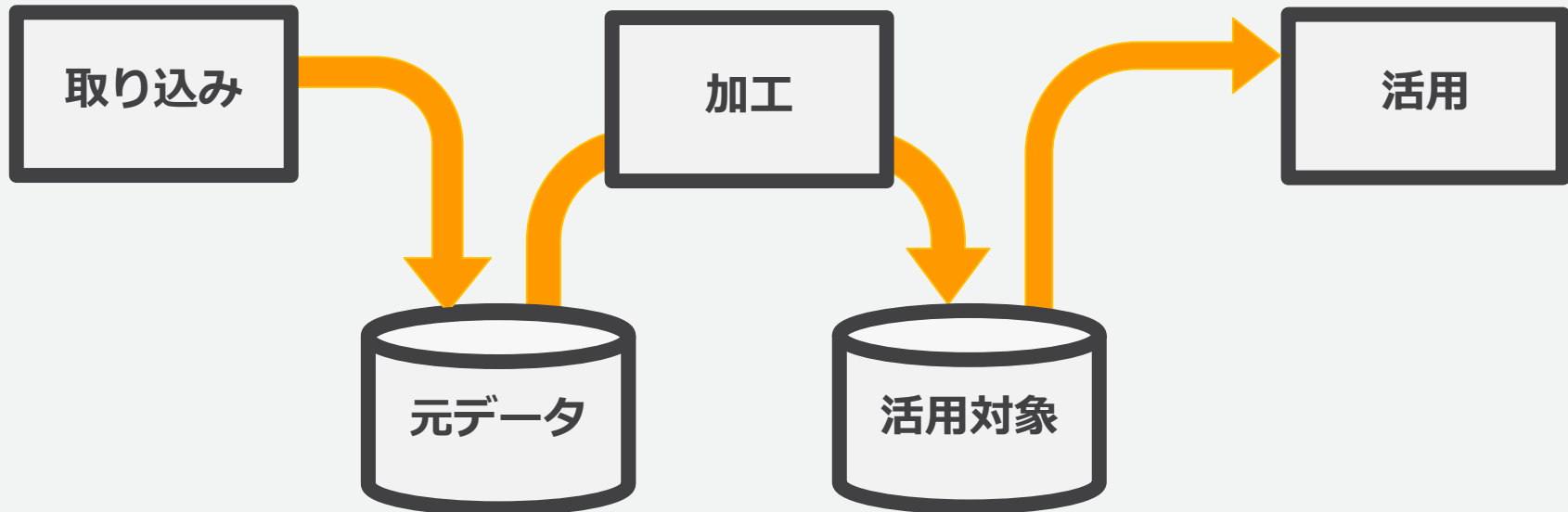
- Amazon S3 おさらい
- **ユースケースからみるS3活用シーン**
 - 課題1 : バックアップストレージが一杯になって困っている
 - 課題2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - **課題3 : データベースが成長して、管理が難しくなってきた**
- 前回BlackBelt オンラインセミナー以降の主なアップデート

課題3：データベースが成長して、管理が難しくなってきた



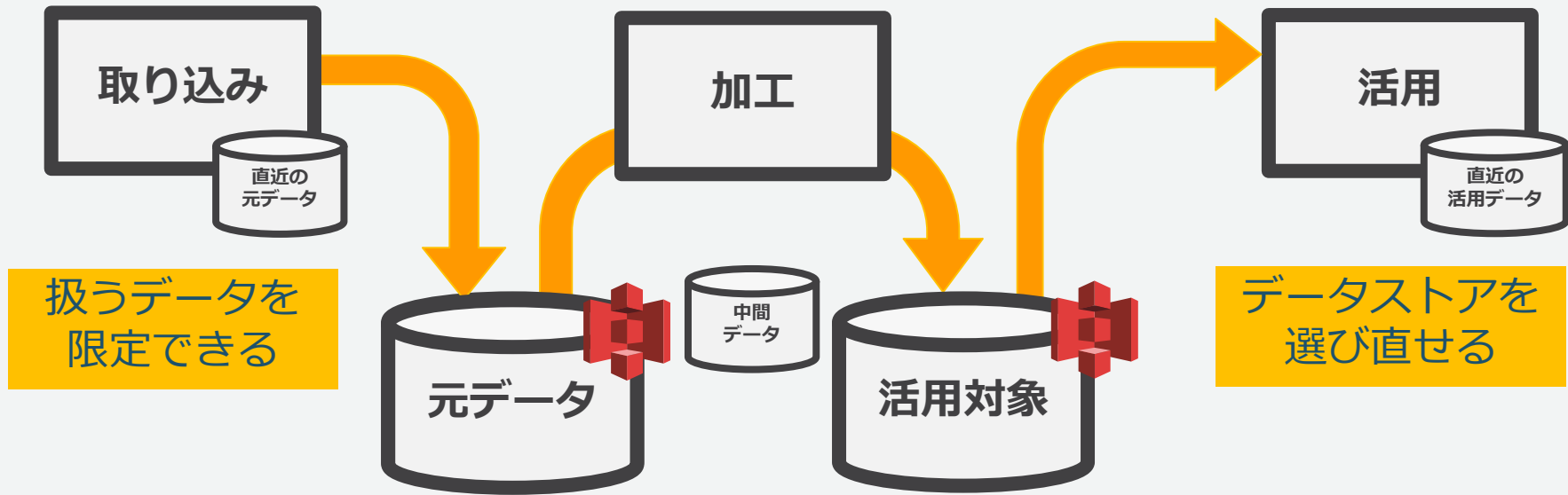
S3を活用して、疎結合にする

データレイク : 取り込み→ETL→分析→可視化
IoT : センサー収集→整形・絞り込み→可視化
機械学習 : 学習材料→学習→推論
HPC : 計測データ→加工・計算→新しい知見
映像 : 撮影・インジェスト→編集→放送

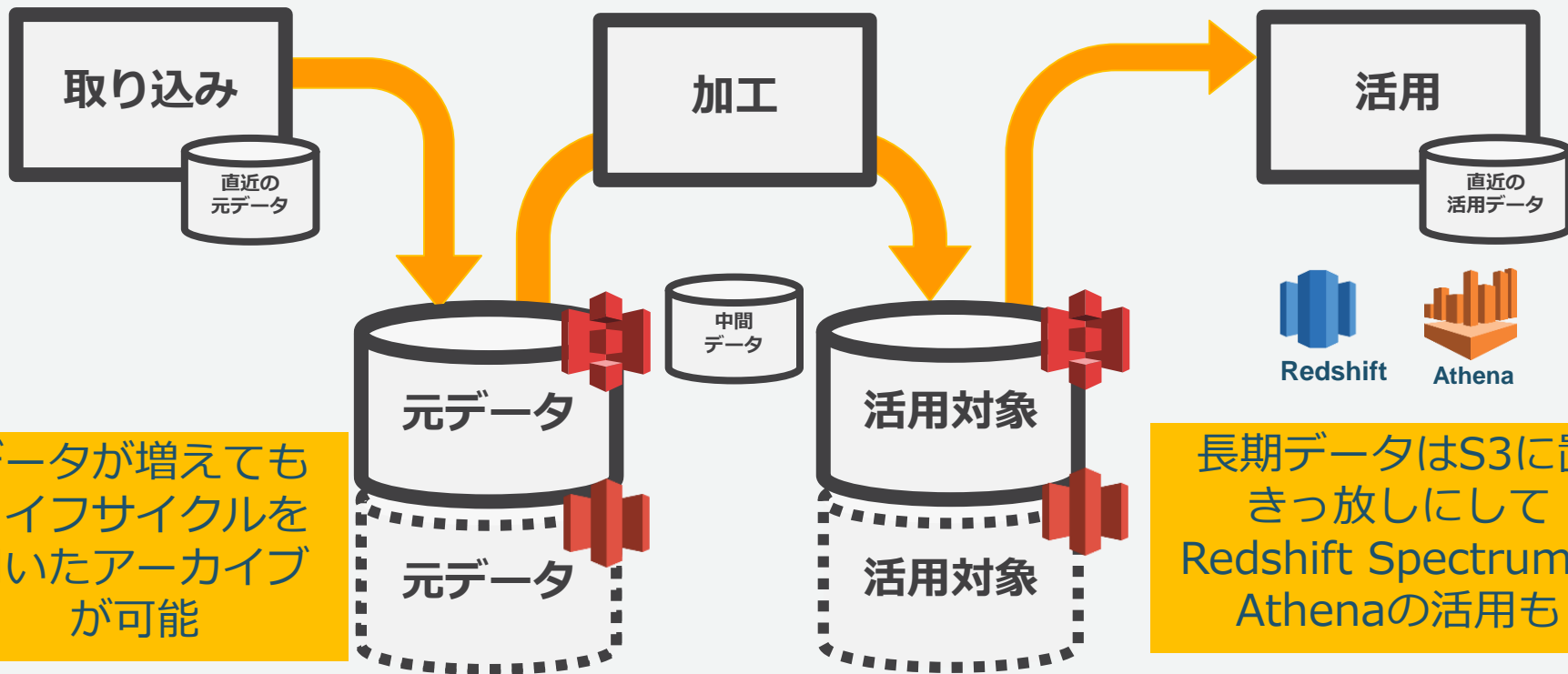


S3を活用して、疎結合にする

例えば、加工するシステムは、
必要な時だけ立ち上げれば良い



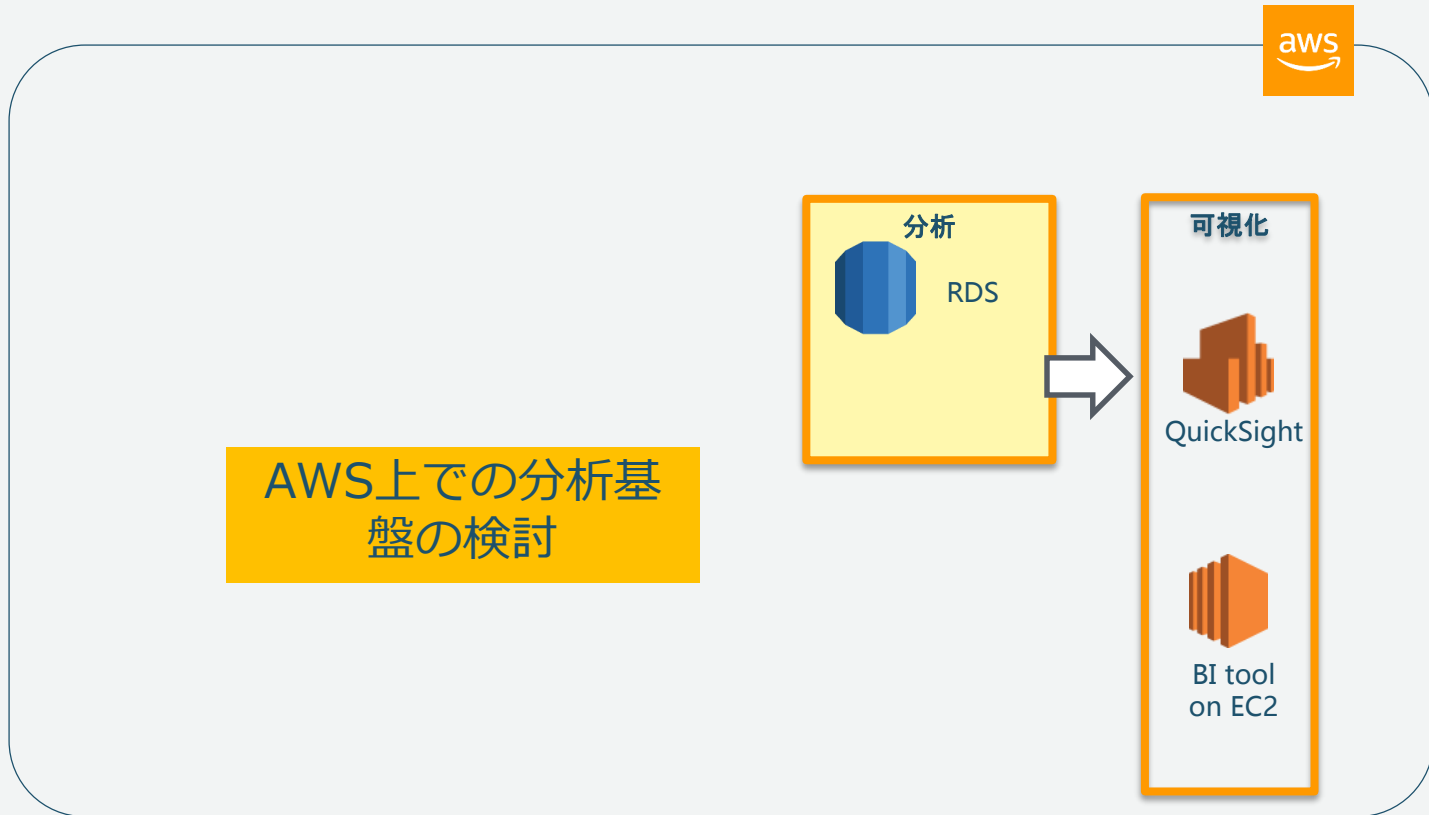
S3を活用して、疎結合にする



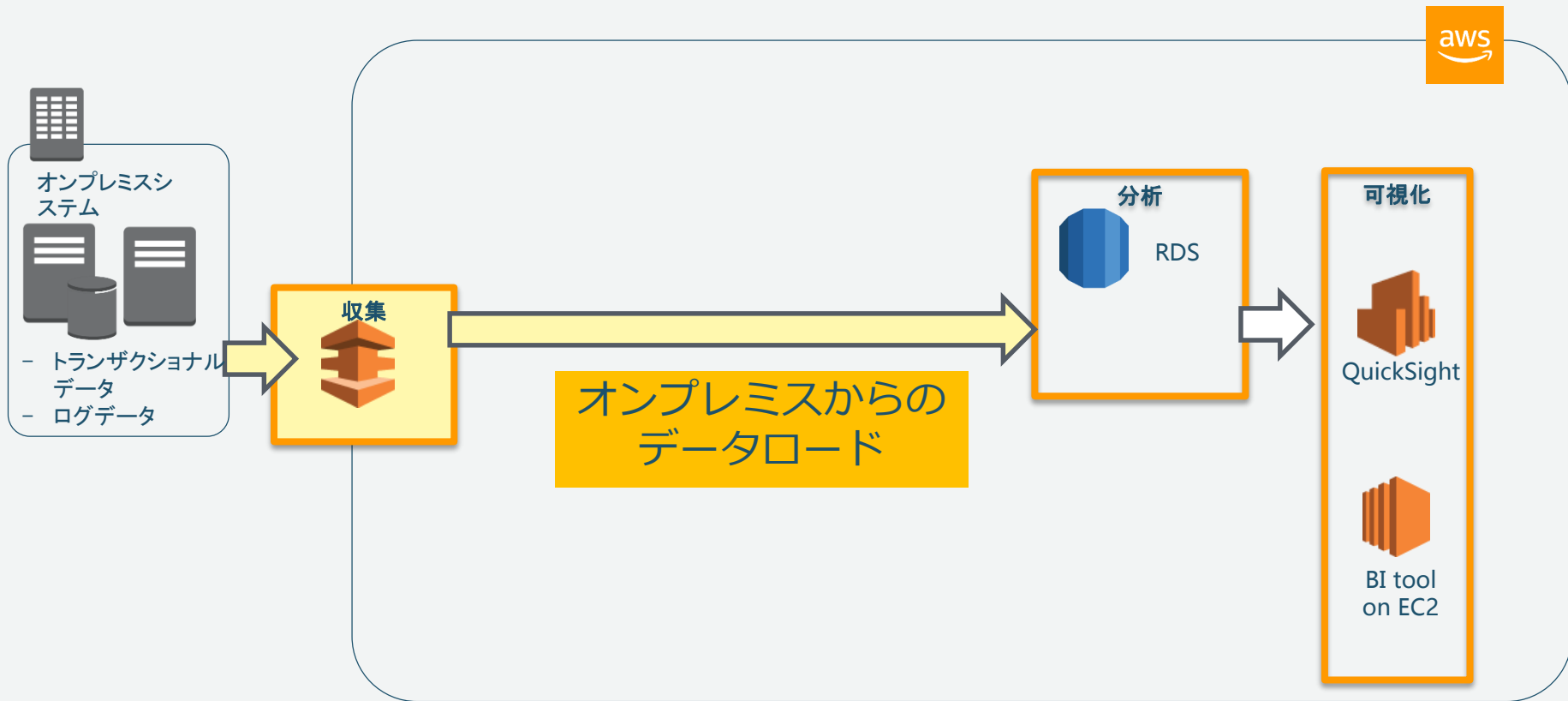
データが増えても
ライフサイクルを
用いたアーカイブ
が可能

長期データはS3に置
きっ放しにして
Redshift Spectrumや
Athenaの活用も

応用例 : データレイク

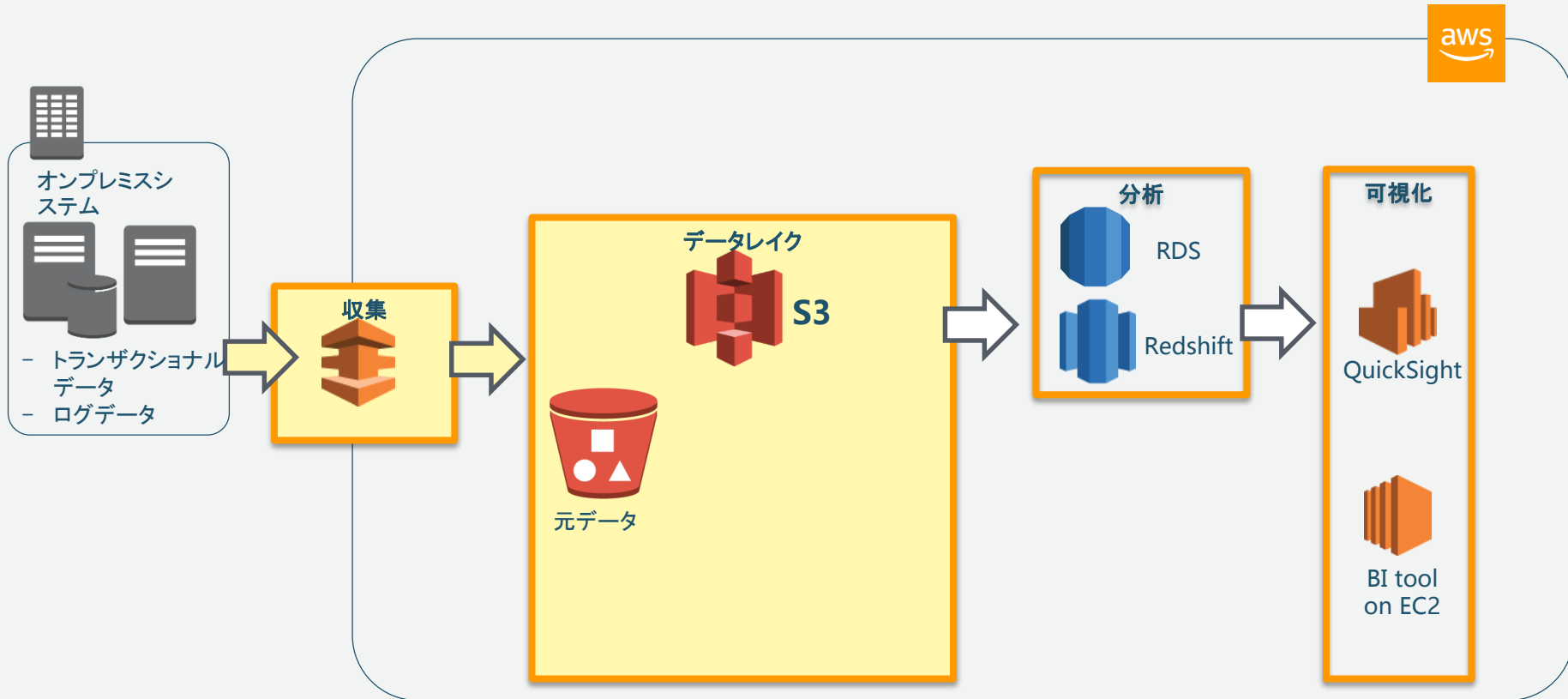


応用例 : データレイク



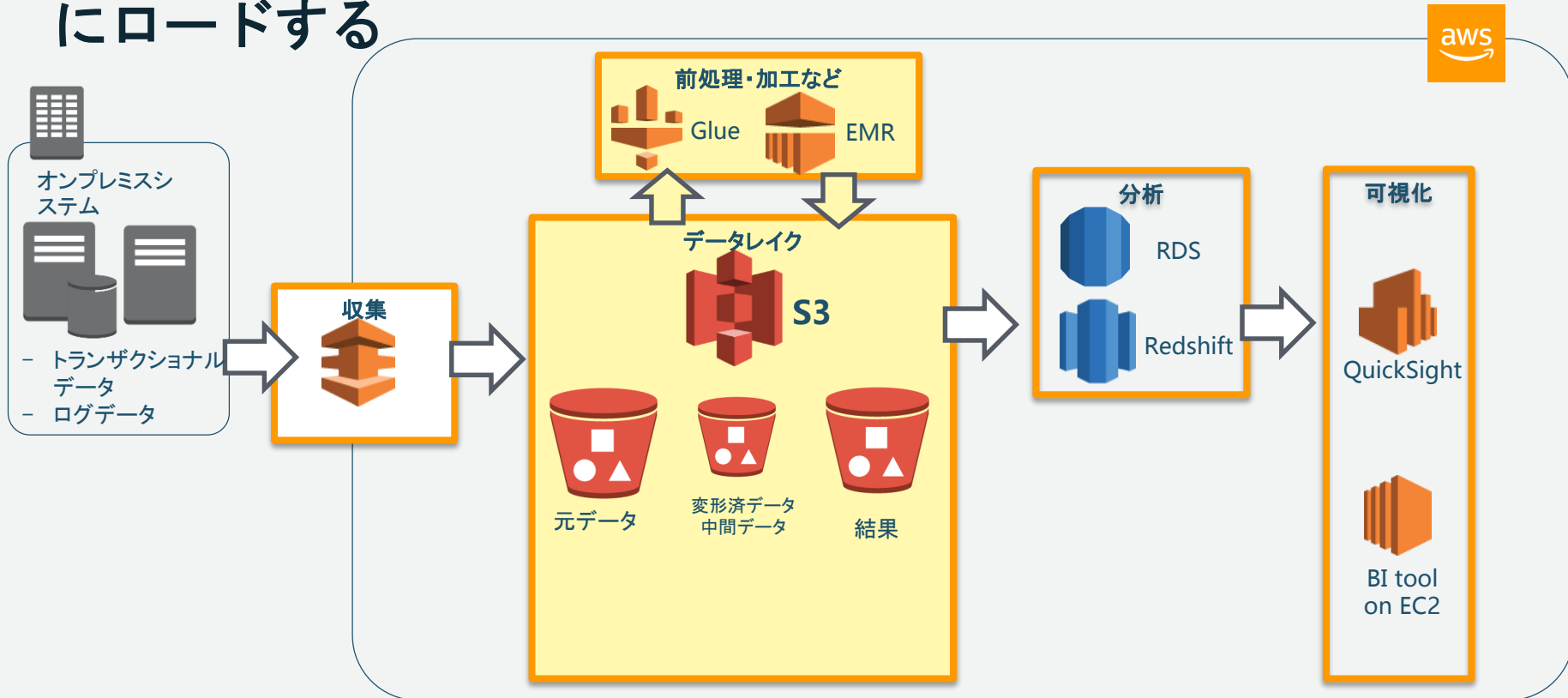
応用例：データレイク

直接のデータロードをやめて一度S3に格納する



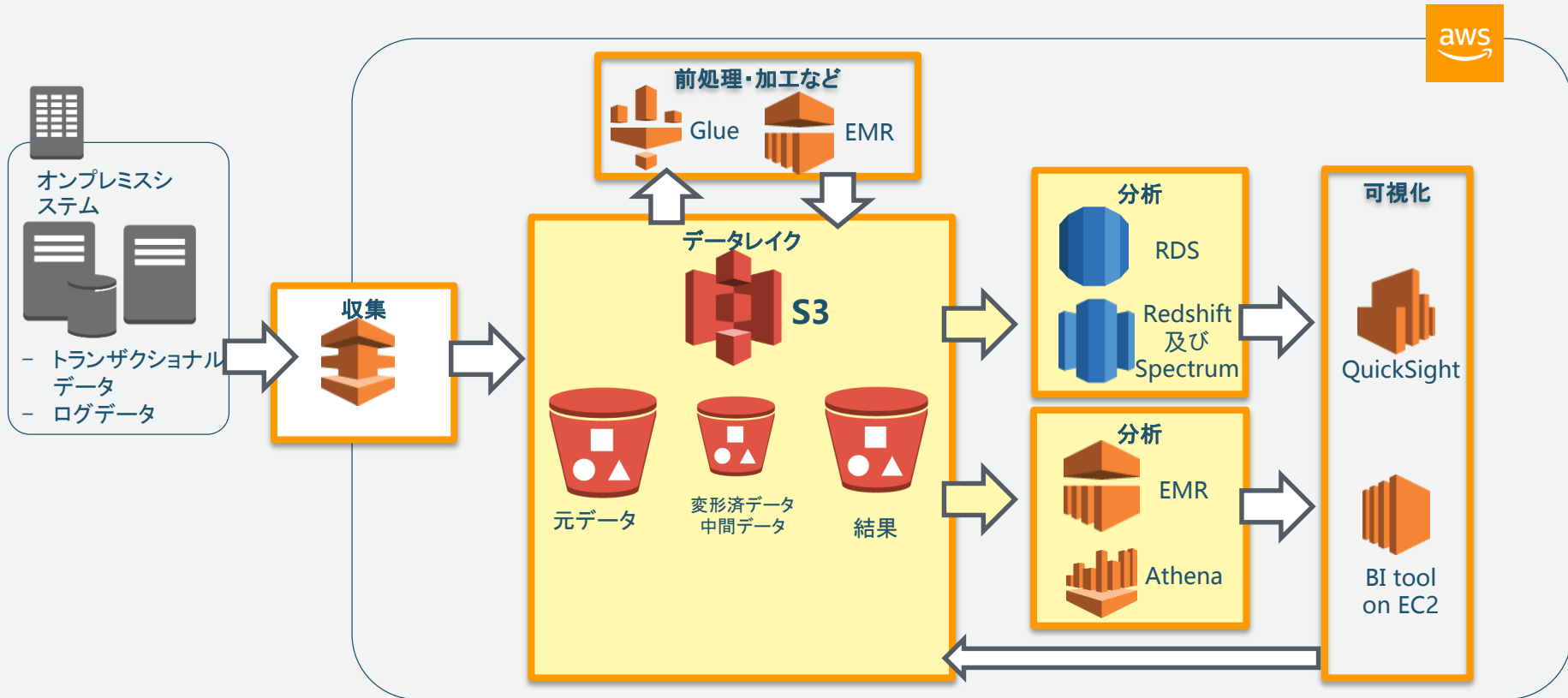
応用例：データレイク

元データを保存し、加工処理などを行なってデータストアにロードする



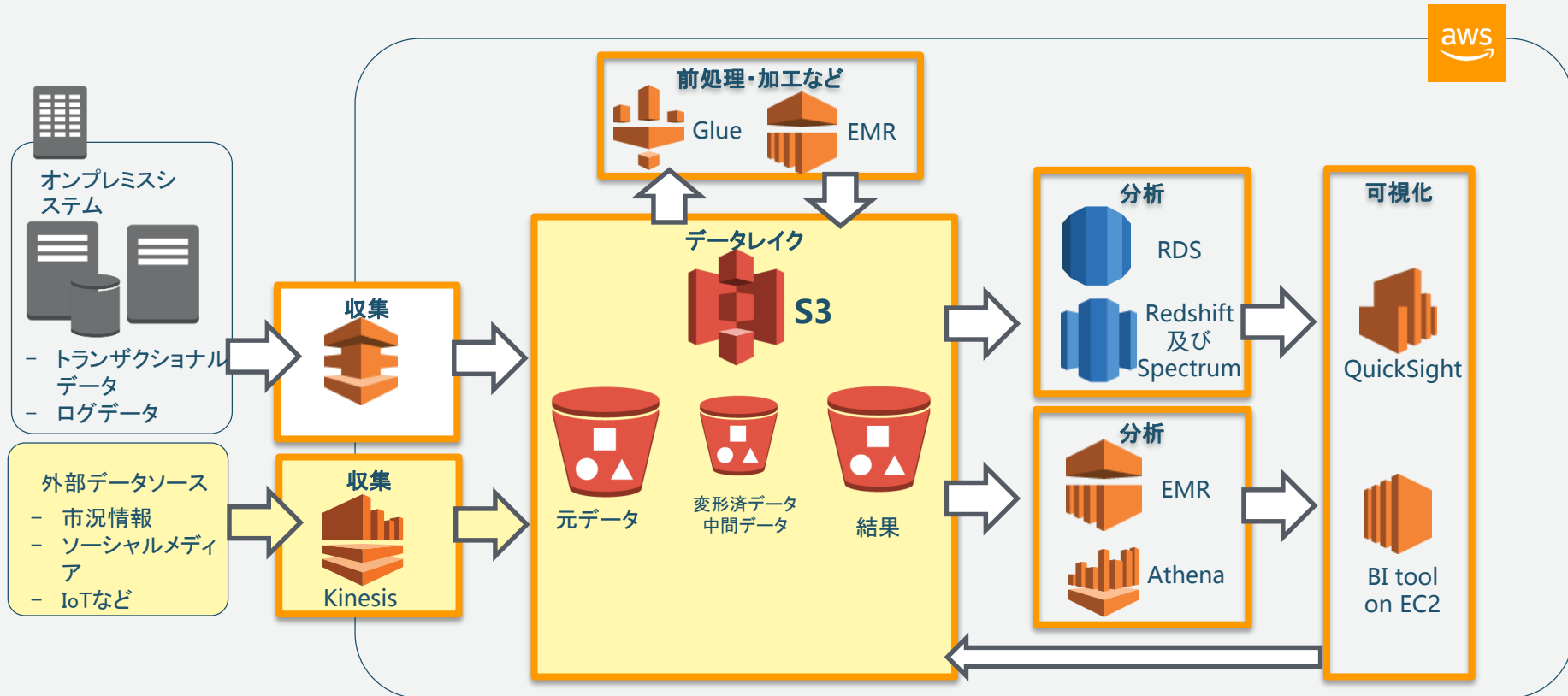
応用例 : データレイク

データストアの選択に自由度が増す



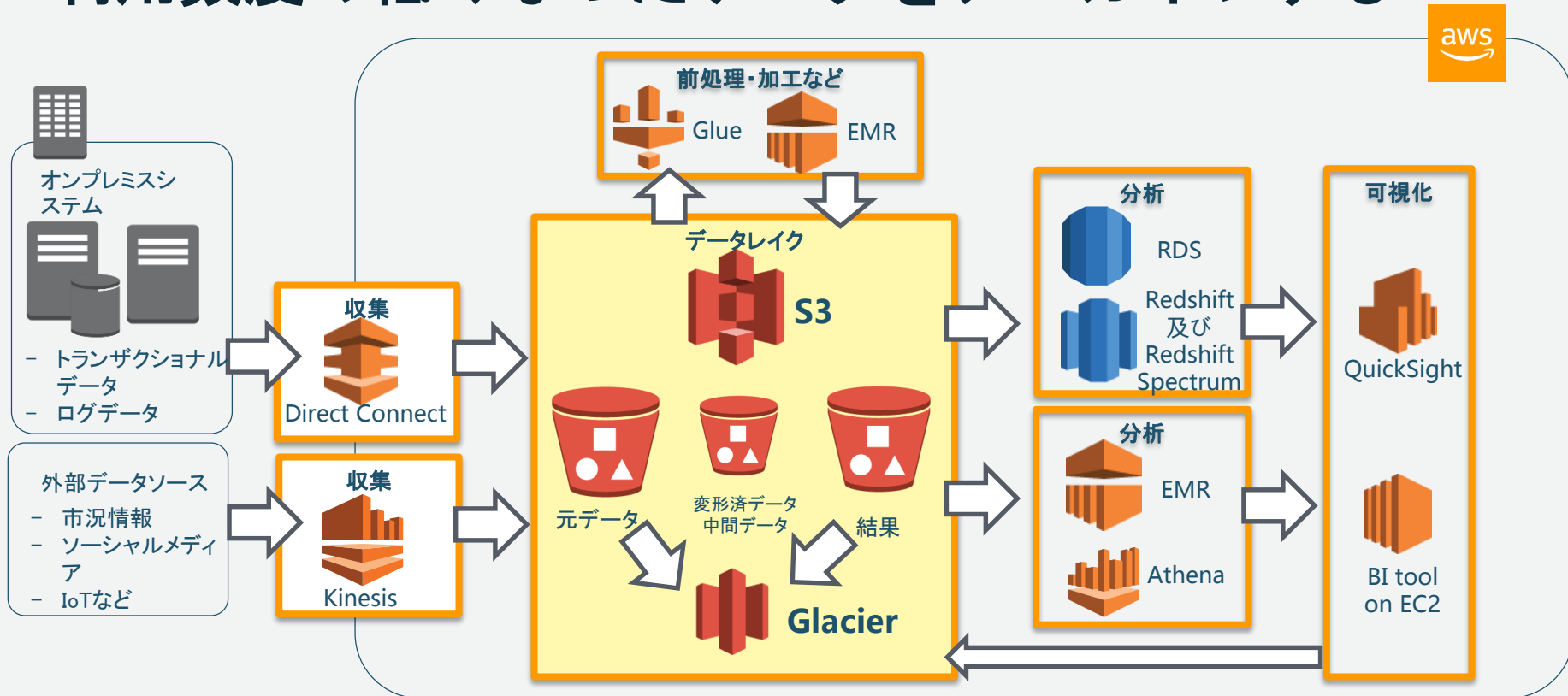
応用例 : データレイク

異なる目的のデータを取り込むことも検討できる



応用例 : データレイク

利用頻度の低くなったデータをアーカイブする

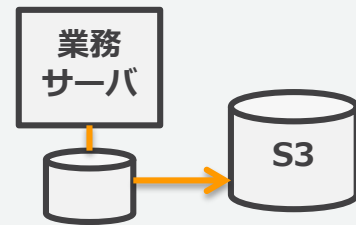


課題例のまとめと活用シーン

- 課題 1 : バックアップストレージが一杯になって困っている



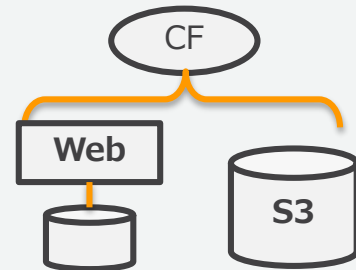
**データ保護・
移行パターン**



- 課題 2 : Webサーバのコンテンツが肥大化してきた



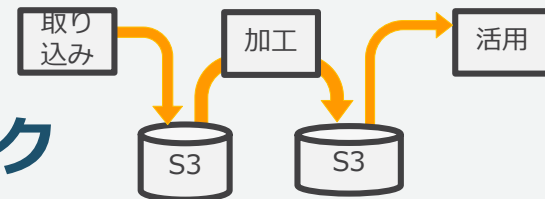
**コンテンツ置
き場所のオフ
ロード**



- 課題 3 : データベースが成長して、管理が難しくなってきた



データレイク



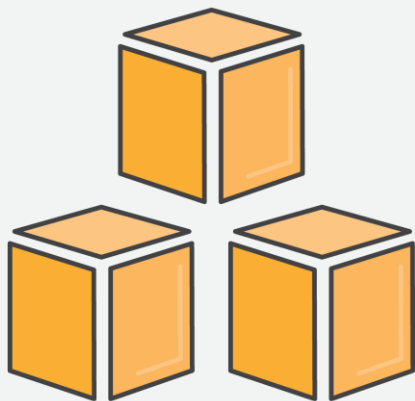
Agenda

- Amazon S3 おさらい
- ユースケースからみるS3活用シーン
 - 課題1：バックアップストレージが一杯になって困っている
 - 課題2：Webサーバのコンテンツが肥大化してきた
 - 課題3：データベースが成長して、管理が難しくなってきた
- **前回BlackBelt オンラインセミナー(2017.4月) 以降
の主なアップデート**

S3 One Zone-IA クラス

New

2018.4月



S3 Standard

S3 Standard-IA (*)

Amazon Glacier



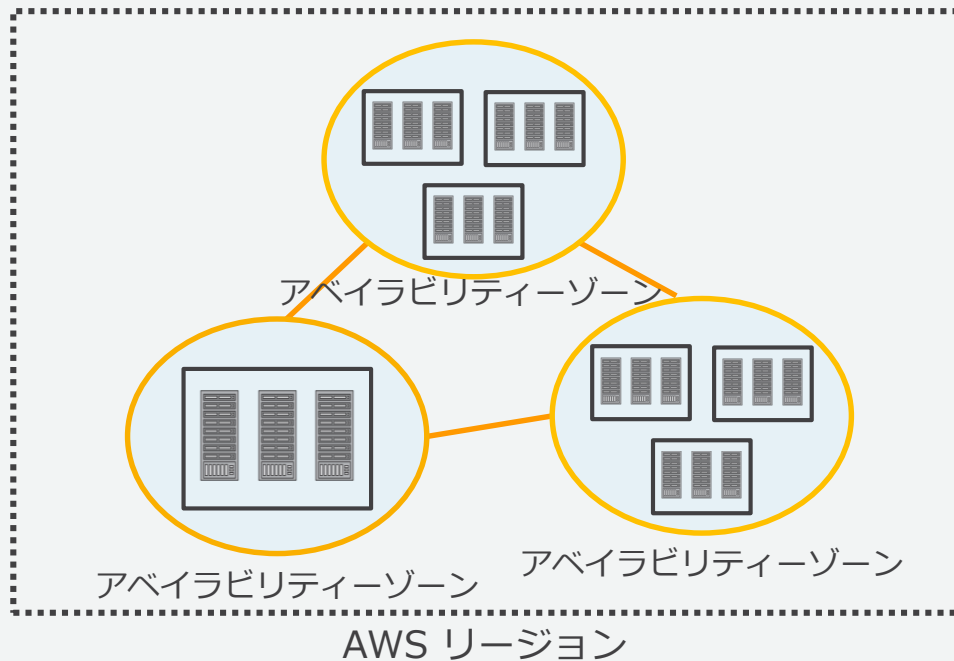
S3 One Zone-IA

複製の数は変わらないので同じ
99.999999999%の耐久性

(*) IA = Infrequent Access, 低頻度アクセス

各ストレージクラス的设计

S3 Standard
S3 Standard - IA
Glacier



S3 One Zone-IA



ストレージクラスの整理

用途に応じて、オブジェクトを格納するS3の場所の使い分け。

ストレージクラス	特徴	耐久性（設計上）
スタンダード	複数AZにデータを複製。デフォルトのストレージクラス。	99.999999999%
STANDARD-IA（標準低頻度アクセスストレージ）	スタンダードに比べ格納コストが安価。いつでもアクセス可能だが、データの読み出し容量に対して課金。IAは Infrequent Accessの略。	99.999999999%
OneZone - IA（1ゾーン-低頻度アクセスストレージ）	Single AZにデータを格納するが、複製の考え方はスタンダード、STANDARD-IAと同じ。ただし、地震や洪水などの大災害による1 アベイラビリティゾーンの物理的な損失には耐性はありません。	99.999999999%
Glacier（アーカイブ）	最も低コストだが、データの取り出しにコストと時間を要する。ライフサイクルマネジメントにて指定する。	99.999999999%
低冗長化ストレージ(RRS)	RRS はReduced Redundancy Storageの略。Glacierから取り出したデータの置き場所として利用。	99.99%

ライフサイクルで活用



S3
Standard



S3
Standard-IA



S3
One Zone - IA



Amazon
Glacier

アクティブなデータ
ミリ秒単位でのアクセス
少なくとも 3 つの AZ
0.025 USD

期間は最低 30 日
ミリ秒単位でのアクセス
少なくとも 3 つの AZ
0.019 USD

期間は最低 30 日
ミリ秒単位でのアクセス
少なくとも 1 つの AZ
0.0152 USD

アーカイブデータ
数分～数時間
少なくとも 3 つの AZ
0.005 USD

自動ライフサイクルポリシー

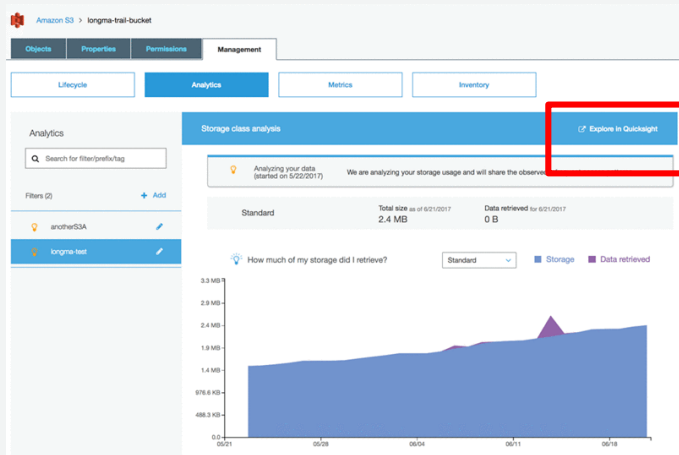
料金は東京リージョンの GB あたりの月額です。

© 2018, Amazon Web Services, Inc. or its Affiliates. All rights reserved.

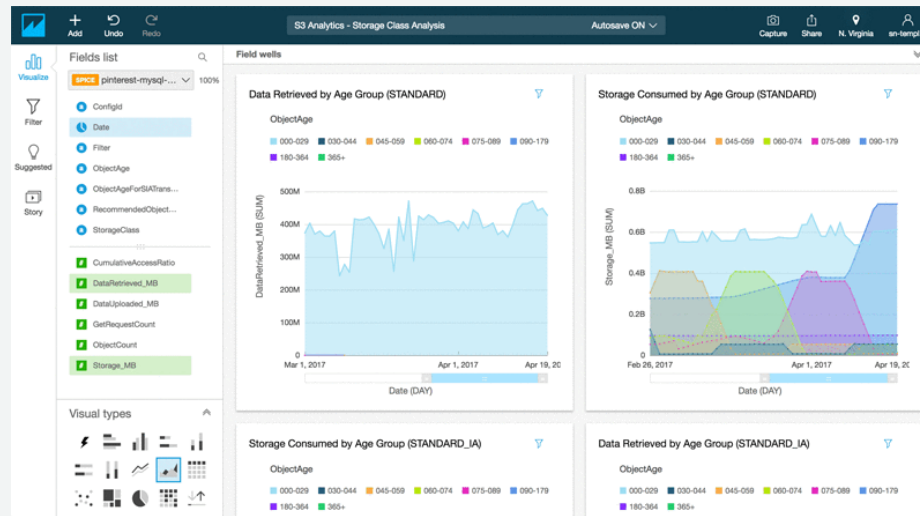


S3 Analytics をQuickSightで閲覧する

New
2017.7月



S3管理コンソールの 管理->分析からたどる



もしくは、QuickSightのデータセット作成時 (New Dataset)でS3 Analyticsを選択

S3 インベントリの活用

S3に入っているオブジェクトのリストをファイルで取得する

概要 プロパティ アクセス権限 管理

ライフサイクル レプリケーション 分析 メトリクス **インベントリ**

+ 新規追加 編集 削除

インベントリ名 フィルター 送信先バケット 送信先プレフィックス 頻度 最後のエクスポート

glacier-toryakio-inventory プレフィックスでフィルタ my-bucket20161220 testlogs/sample-glacier-inve 週1回

- 詳細設定

出力形式 CSV ORC

オブジェクトのバージョン 現在のバージョンのみ

インベントリレポートに含めるオプションのフィールド

- サイズ
- 最終変更日
- ストレージクラス
- Etag
- マルチパートアップロード
- レプリケーションステータス
- 暗号化ステータス

インベントリの暗号化 なし AES-256 AWS-KMS

キャンセル 保存

List APIで頑張らなくていい部分



(CSVに加えて) ORCファイルでの出力に対応

• Athenaでの検索で有効

• インベントリに、Encryptionのステータスを追加

• インベントリファイルを暗号化して保存

New

2017.11月

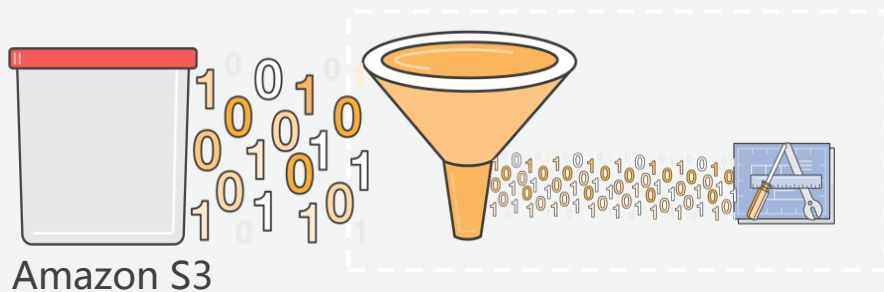
https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AmazonS3/latest/dev/storage-inventory.html

S3 Select

New

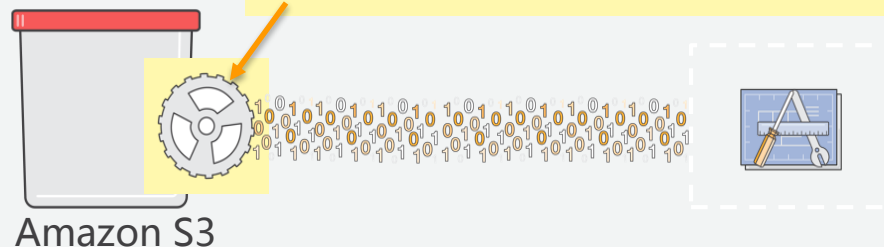
2018.4月

Amazon S3 に格納されているオブジェクトに対して、SQL式にて、部分のみを抽出できる



オブジェクト全体を取得して、アプリケーションにて、抽出する

S3 Selectによりフィルタリング



価格、速度でのメリット

アプリケーションが、S3 Select を利用して、オブジェクトの一部のみを取得する

S3 Select

- Input : フォーマットはCSV, JSON、圧縮(GZIP,BZIP3), 暗号化(SSE)
- Output: CSV, JSON
- SDK: Java, Python(boto3), Ruby, Go, .NET, JavaScript

2018.5月 6月 7月 7月

New

句	データタイプ	オペレータ	関数
Select	String	Conditional	String
From	Integer, Float, Decimal	Math	Cast
Where	Timestamp	Logical	Math
	Boolean	String (Like,)	Aggregate

制約など: <https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/dev/selecting-content-from-objects.html>

SQLリファレンス: <https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/dev/s3-glacier-select-sql-reference.html>

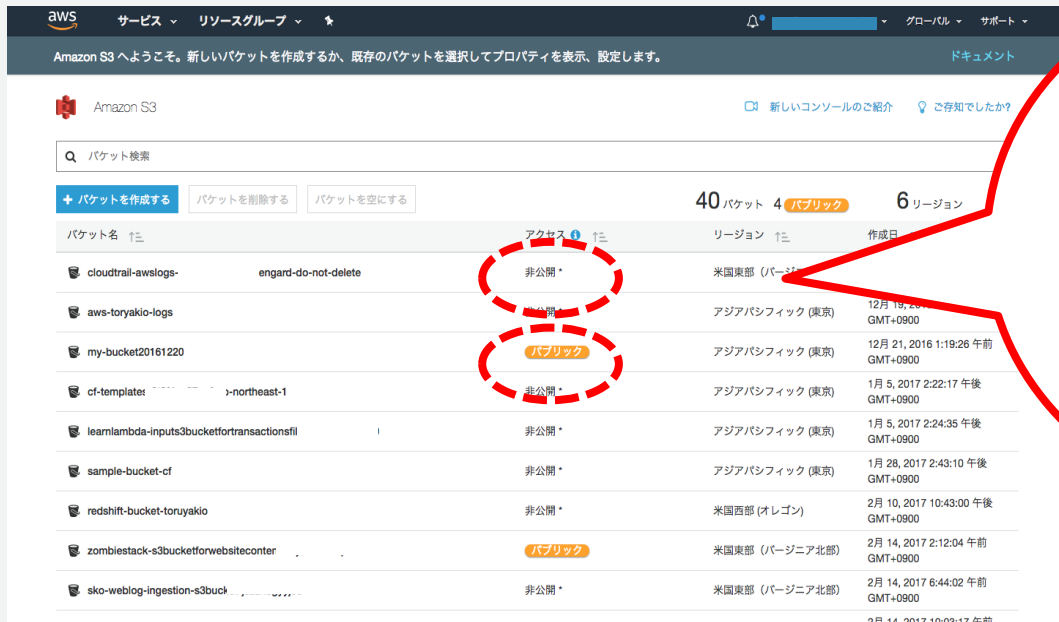
オブジェクトに対する抽出、もしくはAthena、Redshift SpectrumなどのS3へのクエリを行うAWSサービスでの活用

Amazon S3のセキュリティ機能を強化

- アクセス許可チェック、S3コンソールで公開アクセスが許可されたバケットが容易に分かるようなインジケータを表示するようになった

New

2017.11月



公開されている・
されていないがすぐわかる

↓
間違いがあれば
すぐ気付くことができる

- AWS Configにて、S3バケットがPublicにreadできたり、誰でも書き込みめるようになっていないかをチェックするマネージドルールを提供

New

2017.8月

<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/aws-config-update-new-managed-rules-to-secure-s3-buckets/>

Amazon S3のセキュリティ機能を強化

❖ デフォルト暗号化

バケットポリシーを定義することなく、バケットに格納するオブジェクトの暗号化を強制することが可能に

❖ レプリケーション設定の所有者オーバーライドオプション

異なるAWSアカウントでクロスリージョンレプリケーションにて、レプリカをレプリケーション先のオーナーに変更する

❖ KMSで暗号化されたオブジェクトのクロスリージョンレプリケーション

レプリケーション実行時に送信先で利用するキーを指定可能に

New

2017.11月



New

2017.11月



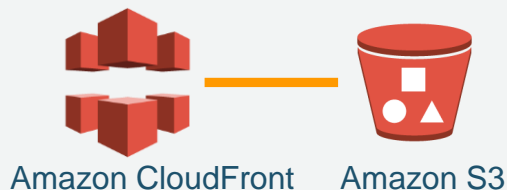
Amazon S3のリクエストレートの向上

New
2018.7月

Amazon S3 は、自動的にスケールするように設計されています。最大 3,500 リクエスト/秒、データの取得で最大 5,500 リクエスト/秒をサポートできるようにパフォーマンスを向上させています。

重要

大量のGETリクエストが発生するワークロードの場合は、Amazon CloudFrontを併用することを推奨



従来通り、定期的にS3バケットへのPUT/LIST/DELETEリクエストが3,500 RPSを超える、もしくはGETリクエストが5,500RPSを超える場合、キー名先頭部分の文字列をランダムにすることでレート向上が期待できるが、その必要性があるワークロードかどうかはよく見極める

```
examplebucket/2013-26-05-15-00-00/cust1234234/photo1.jpg  
examplebucket/2013-26-05-15-00-00/cust3857422/photo2.jpg  
...  
examplebucket/2013-26-05-15-00-01/cust1248473/photo4.jpg  
examplebucket/2013-26-05-15-00-01/cust1248473/photo5.jpg  
...
```



```
examplebucket/232a-2013-26-05-15-00-00/cust1234234/photo1.jpg  
examplebucket/7b54-2013-26-05-15-00-00/cust3857422/photo2.jpg  
...  
examplebucket/9810-2013-26-05-15-00-01/cust1248473/photo4.jpg  
examplebucket/c34a-2013-26-05-15-00-01/cust1248473/photo5.jpg  
...
```

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2018/07/amazon-s3-announces-increased-request-rate-performance/>



参考資料

- Amazon S3
 - <https://aws.amazon.com/jp/documentation/s3/>
- AWS Command Line Interface
 - AWS Command Line Interface での高レベルの S3 コマンドの使用
 - https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/cli/latest/userguide/using-s3-commands.html

公式Twitter/Facebook AWSの最新情報をお届けします



@awscloud_jp



検索

もしくは

<http://on.fb.me/1vR8yWm>

最新技術情報、イベント情報、お役立ち情報、
お得なキャンペーン情報などを日々更新しています！

AWSの導入、お問い合わせのご相談

AWSクラウド導入に関するご質問、お見積、資料請求をご希望のお客様は以下のリンクよりお気軽にご相談下さい。

<https://aws.amazon.com/jp/contact-us/aws-sales/>

<p>お問い合わせ</p> <hr/> <p>日本担当チームへのお問い合わせ ></p> <hr/> <p>関連リンク</p> <p>フォーラム</p>	<h2>日本担当チームへのお問い合わせ</h2> <p>AWS クラウド導入に関するご質問、お見積り、資料請求をご希望のお客様は、以下のフォームよりお気軽にご相談ください。平日営業時間内に日本オフィス担当者よりご連絡させていただきます。</p> <p>※ご請求金額またはアカウントに関する質問はこちらからお問い合わせください。</p> <p>※Amazon.com または Kindle のサポートに問い合わせはこちらからお問い合わせください。</p> <p>アスタリスク (*) は必須情報となります。</p> <p>姓*</p> <input type="text"/>
	<p>名*</p> <input type="text"/>

※ 「AWS お問い合わせ」で検索して下さい。

AWS Well Architected 個別技術相談会お知らせ

- Well Architectedフレームワークに基づく数十個の質問項目を元に、お客様がAWS上で構築するシステムに潜むリスクやその回避方法をお伝えする個別相談会です。

<https://pages.awscloud.com/well-architected-consulting-jp.html>

- 参加無料
- 毎週火曜・木曜開催

【毎週火、木曜開催】AWS Well-Architected 個別技術相談会

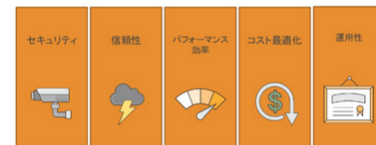
AWS 上で構築するシステムのリスクの把握・回避方法をご希望のお客様

この度 AWS をご活用頂いているお客様を対象に「AWS Well-Architected 個別技術相談会」を開催致します。

Well-Architected 個別技術相談会では、リスクの把握・回避を目的として、セキュリティ・信頼性・パフォーマンス・コスト・運用の5つの観点で、お客様の AWS 活用状況や構成についてお伺いします。AWS のベストプラクティスに基づき作成された Well-Architected フレームワークを元に、今までお客様がお気づきでなかったリスクやAWS活用の改善点を見つけることができます。例えば、自動車においては納車前点検、車検を定期的に行うのと同様に、本相談会はおお客様の AWS 上のシステムをよりよく活用頂くことを目的としております。

» [説明資料\(PDF\) \[AWS Well-Architected Framework -クラウド設計・運用ベストプラクティスの活用-\]](#)

Well-Architected 個別技術相談会にご参加頂くには、本ページにてお申込み後、弊社担当者からお送りするヒアリングシートにご記入・担当にご送付頂く必要があります。その内容を元に、当日の相談会では AWS のソリューションアーキテクトと共に技術的なディスカッションをさせていただきます。また、遠方のお客様、アマゾン東京オフィスへのご来社が時間等の関係で難しいお客様は、Web のプレゼンテーションツールや、お電話を活用したリモートでのご相談も承ります。



下記のフォームよりお申込みください。

* 姓:

* 名: